

令和4年度
第46号

研究紀要

静岡県博物館協会 研究紀要

第46号



静岡県博物館協会 研究紀要 第46号

静岡県博物館協会

研究紀要

第46号／令和4年度

表紙／登呂博物館「発掘！むかしのひとのくらしを探ろう」
出土品を観察し記録する子どもの様子

目 次

博物館連携による

- 02 STEAM教育プログラムの開発と実践
-考古学と科学の視点を取り入れて-

静岡県立ふじのくに地球環境史ミュージアム 坂田 尚子
静岡県立ふじのくに地球環境史ミュージアム 山根 真智子
静岡市立登呂博物館 國島 朋子
静岡市立登呂博物館 渡邊 智大

美術館の鑑賞活動における

- 11 「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学び」
-浜松市立M中学校の美術館利用を通して-

浜松市美術館 島口 直弥

- 16 静岡近代美術年表稿 昭和戦後編 9

立花 義彰

- 37 浜松市美術館の博物館実習

浜松市美術館 島口 直弥

突撃！となりのミュージアム！ Vol.2

- 40 -「どうしてる？多様なミュージアムの運営状況」篇-
(報告)

静岡県立美術館
(静岡県博物館協会事務局) 貴家 映子

- 44 令和4年度 第1回講習会
LED照明の現在 2022(報告)

東海大学海洋科学博物館
(静岡県博物館協会事業推進グループ) 手塚 覚夫

- 46 2022(令和4)年度 静岡県博物館協会 役員会、総会、事業報告
47 2022(令和4)年度 東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部理事会・総会・研修会実施報告
48 静岡県博物館協会 研究紀要投稿規程

編集・発行

静岡県博物館協会(事務局)

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

静岡県立美術館内

電話・054-263-5857 FAX・054-263-5742

デザイン 有限会社 サイズ

発行日 2023年(令和5年)3月31日

印 刷 有限会社 橋本印刷所

博物館連携によるSTEAM教育プログラムの開発と実践 －考古学と科学の視点を取り入れて－

静岡県立ふじのくに地球環境史ミュージアム* 静岡市立登呂博物館**
坂田尚子*、山根真智子*、國島朋子**、渡邊智大**

I. はじめに

生涯学習の必要性が認識される(文部科学省 2018)昨今、博物館の役割は大きくなっていることが実感される。博物館においては、中学生以上大人までの人に満足感を感じていただけるような、企画展、講演会など教育普及事業が実践できている。しかし、このところ来館者として増加している未就学や低学年層の子どもたちにとって、それらは少しレベルが高く、学びの楽しさ、充実感を味わえる場合が少ないことが懸念されている(坂田他 2021)。これまで坂田と山根は、静岡県立ふじのくに地球環境史ミュージアムにおいて、科学教室や観察会などを実施しており、2017年度からは、子どもたちがより主体的に学べるように、またこれから科学教育を見通して、STEM/STEAM教育のアプローチを取り入れたプログラムを構想し実践してきた。同時に、博物館ならではの子どもたちへのプログラムとはどういうものなのか明らかにし、その実践で得たことを知見として蓄積して、これから科学教育の在り方をイメージしたプログラム開発方法論を確立させた(坂田・日江井他 2022)。低学年へのSTEM/STEAM教育がもたらす地方博物館の展示・イベントとの融合という新機軸を作る試みにより、幼い子どもたちを取りこぼすことなく、博物館での学びを提供することを目指してきた。ふじのくに地球環境史ミュージアムではSTEM/STEAM教育プログラムを取り入れたことで、幼い子どもたちに対応した、博物館での学びを提供できる可能性を示すことができ(坂田・池谷ほか 2022)、質の担保についても手答えを感じられるところまで来た。

一方、活動目的が異なる自然史以外の博物館や社会教育施設でも、子どもの来館者の現状は低年齢化という同様の状況がある。幼い子どもたちは、提供されるイベントや学びの対象年齢から外れがちとなっており、その年代における適切な学びを受けられていない傾向が見受けられる。そこで、ふじのくに地球環境史ミュージアムでの成果を他の各種社会教育施設のいくつかと共有し、連携を図りな

がら、STEM/STEAM教育アプローチによる幼少の子どもへのプログラム提供の実現可能性を追究したいと考えた。そして、汎用性の高いSTEM/STEAM教育プログラムの開発方法を見出し、各分野での学びのスタートラインをより滑らかなものにしていくことを目指した。本論文では、いくつか連携を実現できた館の中から、静岡市立登呂博物館での連携構築、プログラム開発、イベントでの実践を通して、見えてきた幼い子どもへの各種社会教育施設における学びのアプローチの一つのあり方を紹介するものである。

II. 研究の背景

(1) 現状と課題

博物館等社会教育施設では、生涯学習における役割を認識するなかで、子どもからシニアまで幅広く学習機会の提供を目指しているが、ともすると幼い子どもたちが展示やイベントの対象者から外れてしまいがちである。そうした中でも、講演を中心としたイベントなどでは「かみくだく」という表現がよく使われるよう、内容を吟味し分かり易いよう言葉に気を付け、子どもたちの理解を注意深く観察しながらプログラムが進行されているものもある。ただ、そのような配慮があったとしても、子どもたちは受け身になりやすく、興味のある子どもたちにとっても集中力がある一定時間維持することは難しい時がある。そのため、低学年の子どもたちの学びと各種博物館の展示やイベントが結びついていない感が否めず、これらにおける対象年齢のギャップを埋めるための取り組みとして、体験活動を中心にはじめた学びの形の導入は、必要なことだと考えられる。実際、博物館等すでに取り入れているところもある。学習指導要領(2017)で示された、主体的で対話的な深い学びにつながる教育プログラムの提供が生涯学習を担う社会教育施設においても求められるなか、今日では、博物館等における低学年の子どもたちへの質の高い学習機会の提供は、社会的な要請となっていると思える。

(2) 問題を解決するための調査と研究

今回、ふじのくに地球環境史ミュージアムと登呂博物館とで連携し、体験的なワークショップでありながら、深い学びに繋がるようなプログラムの共同開発研究を行った。イベントと展示物をつなぎ、子どもたちの興味・関心をひきだすために、STEM/STEAM教育アプローチによるワークショップを取り入れ実践した。登呂博物館ならではの利点を見つけ出し、その利点を活かしたプログラム開発とアレンジを行った。「提案→議論→試行→問題解決」といった共同作業を何回か行うことで、子どもたちの科学や考古学の学びのスタートラインにふさわしい、質の高い教育プログラムの提供を目指した。

III. 研究の目的と計画

(1) 研究の目的

登呂博物館ならではの利点を活かし、幼い子どもたちへの質の高い学びの入り口となるワークショップを模索することで、子どもたち向けの主体的で対話的な深い学びのプログラム作成を試みる。また、その際ふじのくに地球環境史ミュージアムで実践的研究を重ねてきたSTEM/STEAM教育アプローチによるプログラム開発方法が他分野博物館との連携で活かされるのか検討する。以上が研究の目的である。

(2) 実践の計画と準備

登呂博物館と実践的研究を立ち上げ、ワークショップを実践するまでの、話し合い・共同作業等の経緯は以下のとおりである。登呂博物館にふじのくに地球環境史ミュージアム側の二人が出向く形で行った。打ち合わせや会議と会議の間は、メールでのやり取りで情報の共有を補完した。

表1. 立ち上げからプログラム開発と実践までのスケジュール

	月日時	内 容
1	2022年6月2日(木) 15:00～16:00	実施日の決定とイベントの枠組み、これからのスケジュール調整テーマ決め「発掘!むかしの人の暮らしを探ろう」子どもたちへのアンケートの内容について
2	2022年6月30日(木) 13:00～16:00	弥生時代、古墳時代、奈良平安時代の遺物(埋め込む資料)の検討 バレット内の地層の構造について相談
メールでのやり取り		
3	2022年10月6日(木) 9:00～10:30	出土品レプリカの確認 レプリカ作成作業の分担決め
4	2022年10月25日(火) 9:00～11:00	準備作業について、手順や分担を決定 準備物の購入等準備について
メールでのやり取り		
当 日	2022年11月3日(木祝) 10:00～12:00 13:00～ 13:30～15:30	当日準備 会場設営、道具・資料の運び込み、ワークシートの印刷 受付準備 ワークショップの実践

子どもたちへの影響を計るために、参与観察と振り返りを行い、アンケート、ワークシートからの情報の抽出を行った。活動後に実施したアンケートでは、日ごろの自分と比べて、1.活動への取り組み(熱心さ)、2.アイデアを思い付いたか(創造性)、3.試行錯誤・創意工夫をしたか(判断的思考)、4.コミュニケーションは取れたか、5.ほかの子と協力できたか(コラボレーション)の五つの視点で項目を設定し子どもたちに質問した。これにより、「主体的・対話的に学ぶ活動ができたのか」について調査した。ワークシートでは、記述の内容を精査し「内容、考え方が伝わっているのか」について調査する。これらの中から成果や問題点を洗い出し、よりよいプログラム作成につなげ汎用性を追究する。

IV. 実践プログラムの内容

(1) 全体像

実践したプログラム「発掘!むかしの人のくらしを探ろう」の全体像と流れは表2のとおりである。プログラム全体で2時間15分になるよう設定した。

表2.「発掘!むかしの人のくらしを探ろう」の進行案

時 間	内 容	備 考
13:30(5分)	はじまりのあいさつ グループで自己紹介 アイスブレイク「みつけよう」班で協力しよう	
13:35(20分)	はじめに 今日は考古学者になって「とろべ遺跡」の発掘を行います。 ■各班バットに地層があります。班ごとに異なる年代の地層があります ■地層って何? 地層のでき方を寸劇で演示 ■今日のミッション 「とろべ遺跡の発掘調査を行い、出土品から昔の人がどんな暮らしをしていたのかを考えよう」 ■新しい地層はどれ?	〈寸劇に使用〉 ・透明な水槽 ・土(鹿沼土・黒土・砂利) ・しゃもじ ・筆
13:55(25分)	・自分のパレットのすみを少し掘ってみよう。 ・上の層と下の層を比べてよく見てみよう ・どんな層が出たか班で1枚記録する ・どの班の地層が1番新しい? 発掘しよう *・学芸員さんに教えてもらおう発掘の方法 ・出土品は壊さないように丁寧に掘り出す。 ・マップをつくりどこから出土したものなのか記録する ・出土品に番号をつける(同じものは同じ番号でよい)	・マグネット付き画用紙 ・サインペン ・ミニスコップ ・はけ ・パレット
14:20(5分)	片付け・休憩	
14:25(10分)	博物館に展示するためのラベルをつくろう ・出土品の番号「○班 - △ - □ - ◇」の付け方 ・土の種類・発掘者・出土品の種類、特徴・出土品の解説を記入しよう	
14:35(10分)	他の班の出土品を見てみよう ・自分たちの出土品と比べてみよう ・年代が違うと出土品も変わるものどうか? ・同じ年代では出土品は同じなんだろうか?	
14:45(15分)	グループ内で検討・発表準備 ・班で出土品を見比べて考えてみよう 「出土品はどんな時にどのようにして使っていたのだろう?」 「どんな暮らしをしていたのだろう?」 ・ストーリーをつくろう ・ワークシートにまとめよう	
15:00(20分)	発表会 各グループ、発掘された遺跡からむかしの人々がどんな暮らしをしていたか発表しよう	・貫頭衣
15:20(10分)	学芸員さんのお話 学芸員さんのお話を聞こう 学芸員さんの目のつけどころは? そこから何がわかるの?	
15:30	ワークショップ終了・アンケートの依頼	
15:30(5分)	アンケート回答・片付け	
15:35(10分)	企画展を見てみよう 実際に発掘された出土品を見てみよう 学芸員さんに解説してもらおう	
15:45	終了	

(2) 科学的(STEM/STEAM教育)なアプローチについて

・ Science

地層のでき方とそこに埋もれた遺物について、ロールプレイによる実演で見せた。下の地層が古いこと、上の方が新しいことを説明。発掘して出土した物は、昔の人がどのように使っていたかは、実際に見ていないのでわからないが、出土品をよく観察することで、昔の人が使用した痕跡を見つけることが出来ること、そこから昔の人の暮らしを類推することが今回のワークショップの目的であることを伝えられた。ただの空想ではなくよく観察することで、その証拠を見つけることができるこを強調した。

・ Math

同じ時代のパレットには、同じ地層がつくりこまれていって、3種類(3つの時代を表現)の地層パターンがあった。各班に用意された地層の中でどの地層が1番古くてどの地層が1番新しいのかを地層をなしている土を観察することで、分類し、どの順番に積み重なっているか論理的思考を用いて考えさせた。

・ Technology

筆、スコップ、串、ワークシート、鉛筆を用いて、考古学的手法に則り発掘と記録を行った。

・ Engineering

出土品とそれを観察することにより得られたデータを組み合わせて、昔の人がどのようにくらしていたのかストーリーを組み立て、デザインした。

・ Art

昔の人の暮らしや祀りについて、感じ方考え方も含めて理解を深めた。

(3) 考古学的なアプローチについて

発掘体験を行うパレットは時代と内容物のテーマをもとに6種類にわけて設定した。時代とテーマ、主な遺物については以下のとおりである。(※は複製品)

表3. 内容物の時代とテーマ

	「くらし」に関する道具	「まつり」に関する道具
弥生時代	A班 稲穂・あさり・大豆・桃の種・石包丁(※)	B班 ト骨(※)・ミニチュア土器(※)・絵画土器(※)
古墳時代	C班 稲穂・あさり・土師器(※)・須恵器(※)	D班 ミニチュア土器(※)・馬型土製品(※)・人型土製品(※)
奈良・平安時代	E班 稲穂・あさり・墨書き土器(※)	F班 斎串(※)・人型木製品(※)

時代や「まつり」に関する道具については、「祀りとまつり展」の展示内容に準拠し、パレットに埋める各資料については、両館で分担して調達・製作した。これらを参加者1人につき1つずつ用意し、各班のパレットにパレット番号を付与した。なお、これらの時代やテーマについては参加者に伝えず、先入観を持たずに自由に検討する余地を設けた。

発掘体験では、遺跡で行われる発掘作業を疑似体験できるようにプログラムに落とし込んだ。まず、実際に発掘で使う道具の紹介を行った。移植ごとに、発掘する箇所の土を取り除くために使用するもので、体験ではスコップ型のスプーンで代用した。はけは、土中から発見された遺物を傷つけないように、丁寧に土を取り除くために使用するもので、体験では筆で代用した。

発掘作業では、これらの道具を使用して土を丁寧に取り除いていき、遺物を発見した際には実際の発掘でも使われる竹串を使用し、発見場所を記録した。発見した遺物には発見場所や遺物数を記したラベルを取り付けることも説明し、体験ではふせんで代用した。

遺物を一通り発見した後は、遺跡の平面図の作成を行った。平面図はAからDまで4つのグリッドを示すことで、実際の発掘調査と同様に発見場所を記録できるようにした。参加者は竹串を打った位置に発見した遺物をスケッチした。

平面図が完成した後は、発掘した遺物の調書の作成に取り組んだ。調書は高学年向け(小学4年生以上)と低学年向け(小学3年生まで)のものとでそれぞれ項目名を表のように分けた。

表4. 調査項目と記載内容

	高学年向け表示	低学年向け表示	記載内容
1	番号	ばんごう	●班-バレット番号-グリッド番号-資料番号の順に記入する
2	資料の名前	はぐくつしたもののかず	遺物の名前がわかれれば記入する
3	発掘日	はぐくつした日	調査した日付(令和4年11月3日)を記入する
4	発掘者	はぐくつした人	参加者の名前を記入する
5	土の特徴	土のいろ	発掘前に確認した地層の名称を記入する
6	資料の材質	ざいりょう	遺物が何でできているか考えて記入する
7	特徴	とくちょう	気が付いたことを自由に記入する
8	スケッチ	スケッチ	遺物の特徴をスケッチする(寸法は時間と道具の都合上省略した)

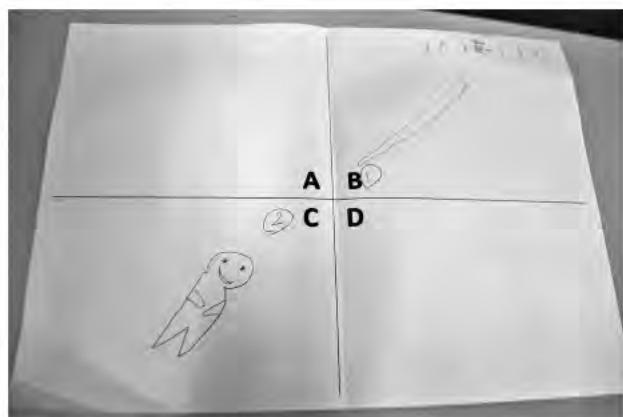


図1 参加者(小学2年生)が作成した平面図

ところはあるかな?」といった投げかけを行い、時代の変化に伴う道具の変化や、同じ時代の遺跡でも様々な用途のものが見つかることを示唆した。

表5. 発表用の情報整理シートの項目

項目	ねらい
どこで使っていた?	使用場所の検討
何をするために?	用途の検討
どのように使っていた?	使用方法の検討
なぜ、そのようにかんがえましたか?	根拠の整理

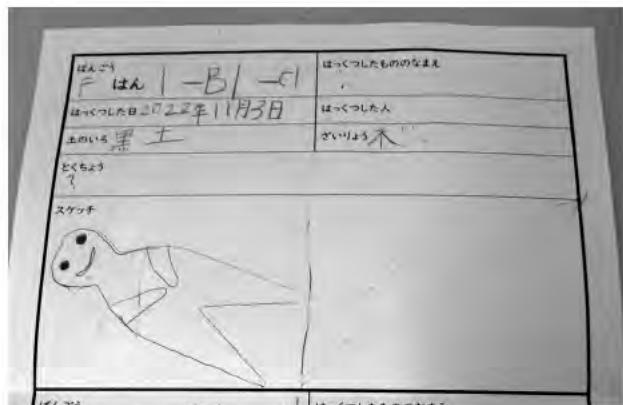


図2 参加者(小学2年生)が作成した調書

発表用情報整理シート		
項目	記入欄	ねらい
どこで使っていた?	内	使用場所の検討
何をするために?	やりましたために	用途の検討
どのように使っていた?	やりましたに使っていました。	使用方法の検討
なぜ、そのようにかんがえましたか?	飛行機で飛んでいます。	根拠の整理

図3 発表用シート(F班作成)

調書を作成後、一度他の班の発掘した遺物と作成した調書を見学する時間を設けた。この間に、参加者に「自分たちが見つけた遺物と、時代が同じ班で見つかった遺物には、どんなちがいがあるかな?」「自分たちが見つけた遺物と、時代が違う班で見つかった遺物には、同じところや違う

V. 実践結果

(1) 実践全体の概要

- ・ 当日の参加者 小学1年生～中学1年生 14人、内訳は、図4のとおり
- ・ スタッフ 講座のファシリテーション(2名)と活動のサポート(2名)
- ・ 実践時間 1時間45分の講座を予定していたが、最後の企画展見学に少し時間がかかり、実際には2時間程度となった
- ・ グループ 6グループ(1グループ:1～3名)

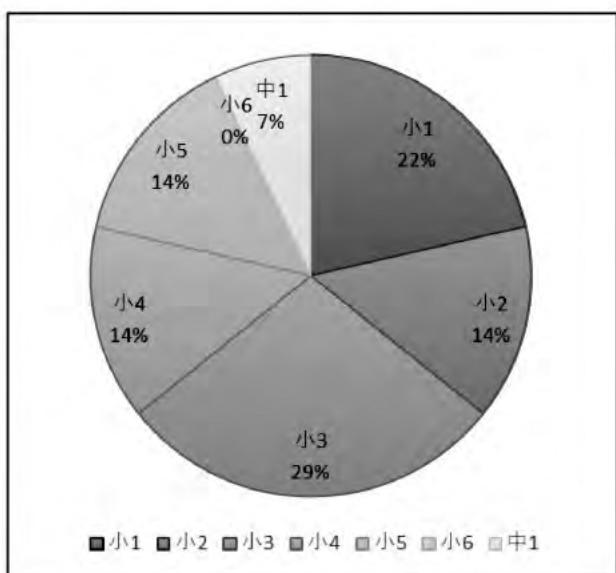


図4 参加者の学年内訳

・ 子どもたちの活動の様子



図5 パレットの中に仕込んだ出土品のレプリカなど



図6 層の入ったパレットを観察している様子



図7 発掘の手法に則って、出土品を記載している様子



図8 ストーリーを作り発表しているところ

・アンケート調査と結果(図9)

とても当てはまると答えた項目として、コラボレーションが多かったことから、ほぼ初対面であっても協力し合って活動できることができたことが分かった。それに伴い、コミュニケーションが取れたとする子が多くいた。また、熱心に取り組めたとする子も多かった。

試行錯誤・創意工夫(判断的思考)ができたと感じている子どもは多くなかった。

試行錯誤・創意工夫(判断的思考)の項目を除き、4つの項目でとても当てはまる、当てはまる、を合わせると8割近くになっており、達成感のある活動であったということが推測される。

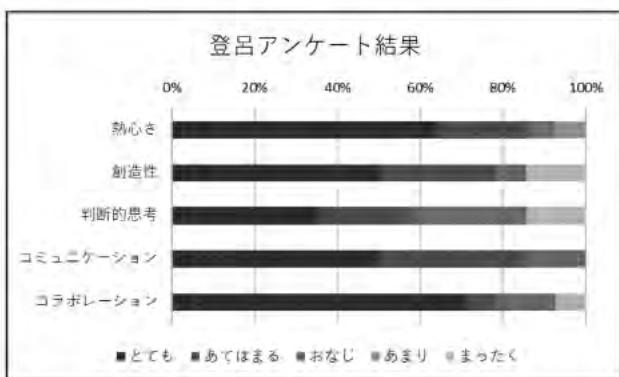


図9 子どもの活動についてのアンケート

(1) 科学的(STEM/STEAM教育的)なアプローチについて

地層のでき方とそこに埋もれた遺物について、ロールプレイによる実演で見せたことにより、本ワークショップの目的と必要な知識について、子どもたちの中に落とし込むことができ、積極的に発掘に取り組む姿と出土品についてよく観察をしている様子がみられた。観察によって得られた情報を用いて、昔の人がその出土品をどのように使っていたかを類推するのは、低学年の子どもには難しいようであったが、異年齢のグループを構成したことにより、年長者がリーダーとなり低学年の子どもをよくフォローしているグループが見られた。

初対面の子どもたちであったため、コミュニケーションが円滑にすむようその都度、指導者がフォローをした。自分の担当したパレットの発掘と昔の人のくらしの類推だけではなく、他のグループの出土品と比較することで、「各グループの出土品が時代によりどのように変化していくのだろうか?」また、「同じ時代でも場所が違えば異なるものが出土

しているのはなぜだろう?」といった、新たな探究の種となるしかけを3つの時代に分け、同じ時代でも生活の場と祀りの場の設定を仕込んでいたが、高学年の子どもはよく比較し、よく思考し新たな探究の種を見つけている様子が見られた。時代の流れや祀りの場について、イメージがしにくかった子どももワークショップ後の企画展の見学で整理された出土品や学芸員の解説を熱心に聞き、学びをさらに深いものにしている様子が伺えた。

(2) 考古学的なアプローチについて

・地層の確認

パレットの隅を下の層が確認できるまで掘らせることで、地層の成り立ちを実感させた。

土の色や特徴を班員で相談して判断していた。

・発掘作業

作業の速度など個人差はあったものの、どの参加者も丁寧に土の掘り起こし作業を行っていたので、遺物を破損してしまったり、遺構をぐちゃぐちゃにしてしまったりするような参加者はいなかった。

遺物を見つけたらすぐに取り出してしまう参加者もいたが、発掘場所に串を指すことや、遺物にタグ(ふせん)を貼ることを声掛けすることで、発掘情報の記録を行えていた。

・調書作成

すでに学習していたり、事前知識を持っていたりするような高学年の参加者は、資料名や特徴を書くことができていたが、低学年の参加者は空欄が多くあった。スケッチは学年関係なく丁寧に記入していた。

・遺物(遺構)の研究・発表

各班の高学年の参加者を中心に、遺物の用途などについて相談して発表した。発表では高学年の参加者が話し、低学年の参加者が紹介する遺物を皆に見せる役割をしていた。参加者の中には「参加者の前で発表」と聞いてプレッシャーを感じて泣いてしまう人もいたが、保護者になだめてもらい、発表時には保護者なしで遺物を披露する役割をこなしていた。

なお、発表時に使用することを想定して貫頭衣を準備していたが、使用した参加者はいなかった。

VII. 考察

(1) 科学的(STEM/STEAM教育的)なアプローチについて

模擬的に遺跡の発掘体験をし、考古学の手法に則って、出土品そのものや出土した際の状況など、つぶさに観察し記録することで、昔の人々のくらしを想像し、空想だけではない根拠に基づくストーリーを作りだすことができ、自らの考えとして発表することができた。このことは、浅くただ体験しただけでは得られることではないと考えられる。プログラム中に深く学ぶための仕掛けをあらかじめ入れ込んでいること、STEM/STEAM教育アプローチによるプログラム開発のスキームが活かされたということを示しているものと考えられる。このことは、今回の実践的研究では、他分野の博物館であっても方法論的には汎用性が示されたということになると思われる。

(2) 考古学的なアプローチについて

小学1年生から中学1年生までの幅広い世代を対象に、発掘作業の大まかな流れや発掘することの意義を体感してもらうことができた。

発見した遺物について初対面の他の参加者と一緒に考えるという経験をさせることができた。時代ごとの特徴や遺物と時代の関連性、企画展のテーマである「まつり」で使われる遺物についての考え方や一般的な遺物との違いについては、発表後の学芸員による解説と、時間の都合上、有志の参加者向けに行った企画展の展示解説で説明した。対象年齢を絞り、時間を確保することで、「まつり」に関する遺物を中心に据えたプログラムや、「発掘した地層の年代から遺物を検討する」プロセスや、「発掘した遺物からその遺物を発見した地層の年代を検討する」プロセスを中心に据えたプログラムを組み立てることができるのでないかと感じた。その際今後は、寸法を図る作業を取り入れたい。また、貫頭衣を着て発表するという形の作りこみが甘かったと感じた。

できることなら各参加者の成果物の写しを保管しておきたかった

(3) 協働的なアプローチと子どもたちの学びについて

遺跡調査・考古学の教材の興味深さ、登呂遺跡という場所での活動の特別感、そしてSTEM/STEAMアプローチを組み合わせてプログラム開発をすることができたので、子どもたちの熱心さを引き出すことができたと考えられる。

また、今回のイベントに合わせて応募した子どもたちで、初めての子ども同士であったにもかかわらず、グループの他の子どもと協力し合って活動を進めることができ、コミュニケーションをとりながら、出土品について考察し、むかしの人のくらしについて、ストーリーを発表することができたということは、子どもたちの学びが、「主体的で対話的な深い学び」という学習の目標・方向性と合致していると言える。これは、プログラム開発のときに意図的にグループで活動する場面をもうけたり、コミュニケーションがスムーズにとれるよう、活動中に指導者たちがフォローしたりしたことによる成果であると考えられる。

今回の実践的研究は、二つの博物館の共同研究によってなされたものであり、その立ち上げから研究課程、実践に至るまで、回数を重ねた話し合いとアイデアの共有が行われたことの結果である。このような協働によるプログラム開発や教室系イベント実践の研究により、プログラムがより洗練されていくことが見えた。

VIII. 結果と今後の展望

本論文は、ふじのくに地球環境史ミュージアムで実践しているSTEM/STEAM教育プログラム開発の方法を応用して、登呂博物館とともに、素材を考古学的なものにしながら企画展「祀りとまつり」に関連付けてプログラム開発と実践を行ったものについて検証した。子どもたちが、生き生きと熱心に学び、考えを深める様子を見ることができた。考古学に興味がわいたとする子どもが何人かいて、子どもたちの学びのスタートラインとしては成果を上げることができたものと考える。今後もプログラム開発スキームがより汎用性を持つように、考古学的な素材を使ってさらに協働しながら実践的研究をすすめていきたい。また、他分野の博物館や社会教育施設でも、登呂博物館での事例を参考にしながら、共同研究によるプログラム開発と実践をしていきたいと考えている。

本研究は、日本科学協会の2022年度笹川科学研究助成によるサポートを受けて行ったものである

<参考文献>

- 文部科学省(2018)：第3期教育振興基本計画(概要),
https://www.mext.go.jp/content/1406127_001.pdf
- 文部科学省(2017)：H29年度小・中学校新教育課程説明会
(中央説明会)における文科省説明資料,
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1396716.htm
- Roekel, D. (2015): An Educator's Guide to the "Four Cs",
Preparing 21st Century Students for a Global Society, National Education Association,
<http://www.nea.org/tools/52217.htm>.
- Ryan, R. M., Deci, E. L.(2000): Self-Determination Theory and the Facilitation of Intrinsic Motivation, Social Development, and Well-Being. American Psychologist 55(1), 68-78.
- Sakata, S., Kumano, Y.(2018): Attempting STEM/STEAM Education in Informal Japanese Educational Facilities Through the Theme of "Sand", K-12 STEM/STEAM Education, 4(4), 401-411.
- 坂田尚子, 池谷渉, 菅原大助, 山田和芳, 熊野善介(2021)：
博物館における小学生を対象としたSTEM/STEAM 教育プログラムの開発と実践－博物館ならではの科学教室の在り方の模索－, 静岡県博物館協会 研究紀要(44), 56-61.
- 坂田尚子, 日江井香弥子, 山根真智子, 吉村有加(2022)：
博物館における科学教育プログラム－幼児や小学生と博物館をつなぐ－ ふじのくに地球環境史ミュージアム IP STEAMグループ
- 坂田尚子, 池谷渉, 菅原大助, 山田和芳, 熊野善介(2022)：
博物館における小学生を対象としたSTEM/STEAM 教育プログラムの開発と実践－地球科学に関する素材をテーマとして－, 静岡大学教育実践総合センター 紀要(32), 51-58.

美術館での鑑賞活動における 「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学び」 —浜松市立M中学校の美術館利用を通して—

浜松市美術館 島口 直弥

1 はじめに

筆者は、勤務館にて学校を対象とした教育普及プログラムの開発に取り組んでいる。その中で、学校の美術館利用のねらいを子供の発達段階や実態、育みたい資質・能力等の側面から把握し、学校の要望に寄り添った教育普及プログラムをカスタマイズすることが、学校の美術館活用を促す要素であることを確認した。¹⁾昨今の学校教育には、世の中の急速な変化や予測が困難な将来を見据え、「子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようになること」が求められ、²⁾現行の学習指導要領には「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が強く謳われる。³⁾そこで、学校の美術館利用をさらに促すには、「主体的・対話的で深い学び」の視点を意識して教育普及プログラムをカスタマイズすることが有効ではないかと考えた。また、子供達一人一人の個性や感性に応じ、学習の個性化や指導の個別化を図る「個別最適な学び」⁴⁾の視点も、美術作品の鑑賞のような「答えのない問い」に向かって探究する学びにおいては特に尊重すべきものと考えた。

本稿では、2か年に渡り美術館を団体利用している浜松市立M中学校の子供達を対象に、「静岡県立美術館超名品展－風景と人間－」(2021年、以下「県美展」)、「ハイジ展－あの子の足音がきこえる－」(2022年、以下「ハイジ展」)で取り組んだ教育普及プログラムを紹介する。成果と課題の検証から、美術館での鑑賞活動における「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学び」の可能性を提案する。

2 教育普及プログラム実施上の視点

「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学び」の視点を意識した教育普及プログラムの具現に向けて、3つの視点を掲げた。

視点①

作品や作家に関する知識や定まった価値に左右されることなく、子供達の個性や感性に基づいた主体的な鑑賞作品の選択機会を設定する。

視点②

造形的な視点(形や色、作品の印象や雰囲気等)を基に作品や友達と対話し、自分の考えを広げたり深めたる機会を設定する。

視点③

造形的な見方・考え方を働きかせ、既存の知識や精査した情報を基に考えを形成し、自分なりの思いや考えを基に創造する機会を設定する。

これら3つの視点に留意しつつ、学校側(教員)の要望に応じ、教育普及プログラムをカスタマイズすることとした。

3 各展覧会の概要

(1) 県美展(2021年)⁵⁾

静岡県立美術館は、17世紀以降の東洋・西洋の風景画、静岡県ゆかりの作家の作品、ロダンを核とした近現代彫刻のコレクションが充実しており、県美展では、それらの中から浜松市出身の木下直之館長が出陳作品を厳選した。出陳作品は、絵画や彫刻、写真から映像作品に至るまで60点以上を数え、モネやゴーギャン、谷文晁等、著名な作家の作品も並んだ。また、森村泰昌や宮島達男等の現代作家、浜松市や静岡県ゆかりの作家の作品も数多く出陳された。サブタイトルにある「風景と人間」に準え、風景を主題とした作品群と人間を主題とした作品群を中心に構成した。

(2) ハイジ展(2022年)⁶⁾

スイス人作家のヨハンナ・シュピーリ原作の“ハイジ”的物語の原作は、約70の言語に翻訳され、派生作品や映像化作品を含めると無数の“ハイジ”的イメージが世界中に拡散

している。ハイジ展は、浜松市美術館完全オリジナル企画で、「ハイジ」という物語の視覚化の歴史を「文学」と「アニメーション」の双方から再構築し、原作者直筆の手紙、原書や翻訳本に掲載された挿絵やイラストの原画等から、原作者の生涯を激動の時代背景とともに紹介した。そして、日本を含めた世界各国の『ハイジ』の翻訳や映画作品、絵本等を通して、海外と日本での受容を比較した。また、テレビアニメーション『アルプスの少女ハイジ』の制作資料(原画、レイアウト、絵コンテ、セル画等)をもとに、アニメーションづくりの仕組みや映像化の工夫等を紹介した。

4 浜松市立M中学校の子供達の実態

本稿で紹介する取り組みの対象となるのは、浜松市立M中学校の美術部に所属する1・2年生の子供達である。2022年のハイジ展に訪れた2年生は、2021年の県美展にも訪れている。M中学校の美術部は、本稿で紹介する2つの展覧会開催時以外にも浜松市美術館を訪れている他、静岡市美術館も訪れる等、美術館を利用した鑑賞活動に積極的といえる。さらに、訪れる美術館、鑑賞する展覧会は、子供達の意見を踏まえて選んでいるといい、子供達の活動に対する主体性の高さが伺える。

5 教育普及プログラムの実際

(1) 私が○○するならー2つの視点でー(県美展)

子供達が主体的に鑑賞作品を選定することができるよう、「A私がどこかに飾るなら」、「B私が誰かに紹介するなら」という2つの視点を提示した。子供達は、自分に合った視点を選択し、展示室内を周りながら鑑賞作品を選定した。

視点Aでは、作品に描かれたモチーフの形や色彩、材料、光等の造形的な要素に注目しつつ、作品全体のイメージや作風も捉え、自分が日々を過ごしている場所の特徴、その場所で過ごしているときの自分の様子や心の状態等と関連付けながら作品を選定し、展示するのに最適な場所を決定した。作品から直接得られる造形的要素(色彩、筆致、質感、スケール感や迫力、繊細さ等)と自らの生活体験を関連付けることで、生活の中にある形や色彩、材料、光等の造形的な要素の自らの印象や感情への影響、イメージを豊かに感じ取っていた。

視点Bでは、作品の造形的要素を根拠に家族や友人等を想起し、その人物の好みや人柄、現在おかれた立場、本人との関係等を踏まえて作品を選定した。作品との対話から、

想起した人物への思いやメッセージを交え、作品から見えたことや感じたことを整理した。

子供達は、作品との対話で気付いたことや感じたことをワークシート(図1)にメモし、それをもとに視点を介した作品紹介文を考え、SNSに投稿した。(図2)筆者は、鑑賞活動にSNSを活用することが、子供達の活動への主体性を高めること、投稿の字数制限(Twitter)が子供達の見方や感じ方の精査と文章表現の試行錯誤を生み、「思考力・判断力・表現力等」を高める可能性を指摘しており⁷⁾、この取り組みにおいても、その手法を活用した。

★鑑賞テーマ★展示中の作品の中で自分が飾るならどれ??

1 展示番号 [7]
2 作品名 [ルーフニのセ-リ]
3 作者名 [ロード・モード (青空のせいじゆき) (2年)]
4 私はこの作品を [④自分の部屋の窓の前 の学校の教室の壁につづく廊下の壁] に飾りたい!
（例）自家の寝室の壁に飾りたい！学校の教室の掲示板に飾りたい！等
5 理由 (描かれた形や色、全体的印象と、飾りたい場所の特徴を関連付けて。)
<p>④自分の部屋にはいい窓があり、その窓は太陽の光と青空がキレイに見える。この作品が好きで選ばせた作品であり、青空がすこし前に強調されているため、本物の青空と太陽の光と合わせてとても綺麗な感じで、窓の外に川の水が見えたら、青空と太陽の光と合わせて見えるのが、『鏡』の作品が飾りたいと思うから。</p> <p>⑤学校の教室で一番お気に入りの場所に飾りたいと思われる。この部屋は音楽室で、音楽室は音楽室で、人が通り(音楽室の場所)で、人が通り(音楽室の場所)で、そんなどこのこの音楽室で、下りおり、そう特別感が違うと思うから。(音楽室、音楽室)</p> 

図1 ワークシート



浜松市美術館 @hamamats... 2021/12/17

中学生の「#私がどこかに飾るなら」

場所：学校の音楽室

音楽室には琴が置いてあり、屏風によく似合う。隅々まで人や物が描かれており、音を細かく奏でているように感じた。丁寧な描かれた形や色は、様々な音の部品で1つの曲を奏でる音楽に似ている。

#浜松市美術館
#静岡県立美術館越名品展



1 2 22

図2 SNSへ投稿した中学生の文章

投稿内容について、作品を前に子供達同士で対話し、互いの考えを広げ深める機会を設定したいところであるが、新型コロナウイルス感染症対策の為、断念した。代替として、講座室でPower Pointを用いて鑑賞作品を提示し、互いの考えを紹介し合う時間を設けた。また、作品が大きく、広い空間に展示した浜松市出身の清川泰次の作品「天と地と-56」について、筆者がコーディネーターとなり、視点A・Bの双方を織り交ぜた形での対話型鑑賞を実施した。(図3・4)

子供達は、「造形的な見方・考え方」を働きながら作品と対峙し、作品を構成する造形的な要素から、感性を働きさせて感じ取ったことや考えたこと、見出した価値や魅力について発言していた。また、視点A・Bを介した鑑賞活動の経験を活かしながら、対話する姿が見られた。



図3 清川泰次作品の対話型鑑賞の様子

- いろいろな形があってユーモアがあふれている感じ。いろいろな目線から見ることができ、想像が膨らみそう。
- 家のリビングに飾ったら、家族みんなの話題になりそう。みんなで何が描いてあるか想像して楽しんでみたいな。
- 放射状の線は何だろう。馬車の車輪かも。真ん中には建物が見えるような気がする。お城のようにも見えるね。
- 何だか光が多い感じがする。全体的に白色だし。放射状に描かれている線は、太陽の光を表しているのかも。
- 私の家族は家から出ない人が多い。この作品を見て、家族みんなに光を感じてほしいと思った。

図4 清川泰次作品の対話型鑑賞での子供達の発言(一部)

(2) 自分の中のハイジ像(ハイジ展)

世界各国に拡散する多様なハイジ像を、「世界のハイジ」、「日本のハイジ」、「アニメハイジ」とカテゴライズし、ギャラリートークを行いながら提示した。子供達は、作品と対話し、各カテゴリーから「気になるハイジ像」を1つずつ選び、ワークシートに模写した。また、そのハイジ像を選んだ理由を造形的な視点(形や色彩のよさ・美しさ、作者の心情、表現の意図、創造的な工夫等)を基に言葉で描き加えた。(図5)



図5 「気になるハイジ像」の模写(ワークシート)

模写後、講座室にて「気になるハイジ像」について友達同士で対話する機会を設けた。(図6)対話を通して、自分と異なる他者の見方や感じ方の面白さに触れたり、自分の見方や感じ方をより確かなものにしたりしている様子が伺えた。

その後、一連の鑑賞活動を通して生まれた「自分の中のハイジ像」を簡単なイラストで図像化した。ギャラリートーク、模写、作品や友達との対話を振り返り、髪型、服装、表情等、図像化の根拠を付記するようにした。(図7)

活動中は常時展示室での作品鑑賞を許可し、講座室と展示室を何度も行き来しながら、「自分の中のハイジ像」を描く様子が見られた。なお、この活動で子供達は、鑑賞活動と表現活動を往還することとなる。所謂「鑑賞と表現の一体化」により、鑑賞と表現で共通して育むべき資質・能力である「思考力・判断力・表現力等」の育成をねらっている。また、鑑賞活動と表現活動の往還に際し、常に本物の作品に立ち返ることができる環境は、美術館ならではの贅沢な学習環境といえよう。



図6 「気になるハイジ像」について対話する子供達



図7 「私のハイジ像」(ワークシート)

6 成果と課題の検証

(1) 視点①について

鑑賞作品を子供自身が選択する機会を設けるため、県美展では「私がどこかに飾るなら」、「私が誰かに紹介するなら」という2つの視点を、ハイジ展では「世界」、「日本」、「アニメ」からそれぞれ「気になるハイジ像」を選ぶという視点を提示した。子供達は視点を頼りに、作品を主体的に選択することができた。

鑑賞作品を自ら選択することは、「主体的な学び」を促すのはもちろん、「個別最適な学び」の具現に向けた「学習の個性化」に資するものといえる。美術館での鑑賞は、自分のペースで展示室内を行き来し、目に留まった作品からそのよさや美しさを感受する機会が保証されるべきであるが、

これまでの教育普及プログラムでは時間的な制約上、取り上げる作品を限定せざるを得ない状況があった。本稿の取り組みは、その点を改善することができた。ただし、「個別最適な学び」には、学習の個性化に加え指導の個別化が求められるが、それぞれが別の作品を鑑賞している子供達への指導・助言が適切にゆき渡ったとは言い難い。また、全員で一つの作品を鑑賞した場合と比較し、子供達の中の課題の共通化が図りづらい状況があり、考えを広げ深めるはずの友達との対話が一方通行かつ表面的なものに留まりがちになる傾向があった。県美展で清川作品を全員で鑑賞したように、個々で行う鑑賞活動と全員で行う鑑賞活動をバランスよく実施することが有効であろうが、時間的制約の中でどこまでの取り組みが可能か、引き続き検証が必要である。

(2) 視点②について

作品との対話では、闇雲に作品を見るのではなく、造形的な視点を子供達に明示することが重要である。県美展では作品から直接的に得られる造形的な要素(色彩、筆致、質感、スケール感や迫力、繊細さ等)、材料、光等の造形的な要素の自らの印象や感情への影響等を、ハイジ展では形や色彩のよさ・美しさ、作者の心情、表現の意図、創造的な工夫等を、それぞれ造形的な視点として示した。子供達は、これら視点を取捨選択の上、作品と対話するきっかけやツールとして活用していた。

友達との対話は、他者の多様な見方や感じ方に触れ、自分の見方や感じ方を広げたり深めたりする好機である。県美展では、清川作品の抽象表現について、造形的な視点をもとに子供達同士で対話を重ね、「答えのない問い」に向かって探究しながら自分なりの意味や価値を見出す様子が伺えた。ハイジ展では、世界と日本の様々なハイジ像から造形的な視点をもとに「気になるハイジ像」を選んだ。友達との対話を通じて、人によって違う視点で作品を選んでいること、同じ作品を選んでいてもその視点が異なること等を実感しており、自分の見方や感じ方の広がりや深まりは、「自分の中のハイジ像」として描いたイラストに結実している。

本稿での取り組みにおける「対話的な学び」は、美術作品の制作や鑑賞に関心の高い子供達だからこそ実現し得たといえるかもしれない。多様な子供達が主体的に作品との対話を楽しみ、友達との必然的な対話が発生する課題設定の検討が求められる。

(3) 視点③について

県美展、ハイジ展ともに、子供達は作品と対峙する際、人生経験の中で習得してきた知識を相互に関連付けて活用し、「造形的な見方・考え方」を働かせて「答えのない問い」に向かって探究する様子が見られた。その中で、作品や展示キャプションから得た情報、友達との対話から得た情報を精査して自分の考えを形成し、思いや考えを基に自分なりの意味や価値を創造していた。県美展ではSNS投稿用の文章として、ハイジ展では「自分の中のハイジ像」のイラストとして、それぞれ形とすることことができた。

しかし、「個別最適な学び」の具現に伴う指導の個別化を図ることは難しく、表面的な鑑賞活動に留まる子供も複数いた。引率教員との連携に基づく個々の子供への指導・助言を可能とする支援体制の構築も視野に入れる必要がある。

7 おわりに

美術館での鑑賞活動における教育普及プログラムでは、本稿で提案した3つの視点は概ね有効であり、「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学び」の具現に寄与するものと考える。取り組みの積み重ねが、子供達の学びの豊かさと鑑賞活動の満足度を高め、美術館利用をさらに促進するのではなかろうか。(図7)取り組みを通して浮き彫りになった課題の改善を含め、新たな取り組みとその検証を継続していく。

展示品の紹介はもちろん、各種の企画を立ち上げから運営までされている学芸員さんしか知らないようなウラ話ややりがい・苦労なども織り交ぜて丁寧にわかりやすくお話しくださり、生徒たちは興味津々です。今では企画展のチラシを手に「これに行きたい」と言って僕を動かすのは、いつだって生徒の方です。多感な時期に本物を見たり仲間とともに鑑賞を楽しんだりすることで、芸術や美術館をより近くに感じられます。行こうと思えばいろいろな芸術が感じられる環境があることを生徒たちに体感してもらい、将来にわたって、芸術を楽しめる人になってもらいたいです。

図7 M中学校教員(美術部顧問)の声

[註]

- 1) 島口直弥「学校の美術館活用を促す教育普及プログラムの開発－西洋絵画展における実践を中心に－」『美術教育』日本美術教育学会、2019年、pp.94-95
- 2) 「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編」文部科学省、2017年、pp.1-2
- 3) 前掲書2、文部科学省、pp.3-5
- 4) 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」中央教育審議会、2021年、pp.15-22
- 5) 島口直弥「静岡の『県立美術館』と浜松の『市立美術館』-双方の使命とその融合-」『静岡県立美術館ニュースアマリリスNo.143』静岡県立美術館、2021年、p.4
- 6) 島口直弥「小田部羊一氏と中島順三氏へのインタビューで迫る『浜松・ハイジ展』の魅力」『浜松市美術館完全オリジナル企画 ハイジ展ーあの子の足音がきこえるー展覧会図録』浜松市美術館、2022年、pp.5-10
- 7) 前掲書1、島口、pp.94-95

静岡近代美術年表稿 昭和戦後編 9

立花 義彰

1974(昭和49)年、戦後県内美術の主要な展示会場であった県民会館は県から静岡市への移管を経て、1978(昭和53)年の静岡市民文化会館の開館、1986(昭和61)年完成の静岡市役所新庁舎建設に伴って、隣接する戦前建築の静岡市公会堂と共にその姿を消すこととなる。

県民会館の市への移管と時を同じくして、1974(昭和49)年4月完成の静岡県庁西館には2階に展示室が設けられ、貸展覧会場として機能を旧県民会館から受け継ぐ形となった。天井高が一般事務室並みに低いという不満はあったものの、市街中心地ということもあって、一般の美術愛好家レベルの利用者には広く受け入れられた。

しかしながら、県民会館の果した博物館的機能は、総割行政の弊なのか、どこへも受け継がれなかった。県文化センター内の県立中央図書館は、県民会館の館報類すらも継承していない。県教育委員会では、県文化センターと文化財を所管する関係上、当初構想・規定路線としての音楽堂や、埋蔵文化財センターの整備が優先的に考えられており、美術分野への関心は決して高くなかった。1974(昭和49)年、県教育委員会が県立美術博物館建設準備調査に着手と、「静岡新聞」8月28日付記事にあるが、残された資料を見る限り、役所の作文の領域を出ていない。美術の分野でさらに問題なのは、博物館全体構想の概要すら未確定のまま、教育委員会での県展買上作品を、将来の美術部門の収蔵品と説明していた点にある。逆に県民会館旧蔵作品の多くは県管財課の所管となり、教育委員会との関わりを失った。

同年4月から6月の間、静岡新聞に中川雄太郎「郷土の画人」が連載されている。「郷土の画人」は、翌年1975(昭和50)年に逝去する中川の健康状態もあってか、県内画壇に関しての十分な著述とはなっていない。なお中川歿後、作品及び創作版画誌は浜松市美術館に収蔵されたが、県内美術に関わる史資料類の多くは散逸した。

他の状況は静岡新聞の年末での県内美術界回顧記事から窺う事したいのだが、如何なる理由によるのか

1974(昭和49)年の県内美術回顧を欠き、1975(昭和50)年12月22日夕刊の伊藤勉による「県美術 内なる自己を照射-長岡宏、柴田隆二の作品-」へと飛ぶ。伊藤は副題の長岡、柴田のほか、市川正三の作品、飯田昭二らによる「複数」展、前田守一らのナンセンス展などを挙げている。

補足し述べると、計報としては1975(昭和50)年6月の鈴木満の逝去が惜しまれる。なお若い世代へと眼を向けるならば、1974(昭和49)年10月県庁西館展示室での県内若手作家たちのアートヴァージン展開催は、その後の県内現代美術グループ展の興隆を予見させるものであった。

県内の博物館に関しては、1974(昭和49)年に池田20世紀美術館、航空宇宙科学館、沼津歴史民俗資料館の開館が、翌1975(昭和50)年には静岡市文化財資料館の開館があった。また1975(昭和50)年から翌年にかけて富士美術館で行われたトレチャコフ・プーシキン二大美術館展の開催が耳目を集めた。

この1970年代後半は、団塊世代を主体とした学生運動の沈静化と共に、オイル・ショックによる景気の後退が大きな社会現象であり、美術界もその影響下にあった。1975(昭和50)年11月8日付静岡新聞記事「美術マーケット昨今」は、昭和47年秋から翌年春の狂乱的絵画ブームを枕とし、東京美術俱楽部での第2回入札会場での取材を基に、副題の「落ち着きを取り戻した市場/正常な大衆化始まる/にぶい高価な作品の動き」に示される画商たちの発言を伝えている。

文化財等の被災としては、1974(昭和49)年5月の南伊豆地震による保田龍門《吉田松蔭像》(1942・昭和17年作)の破損。同作は、地元作家、住民らの手により修復がなされた。屋外彫刻等の場合、自然災害そのものよりも、その後の人的要因による消失が多い事を鑑みると、幸いなケースであったといえる。

1974 昭和49年

- 1/ 1 芹沢鉢介、「わが青春の日々」挿絵。
(毎日東, 中, 西部版1/1)
- 1/ 1 山口源「初日の出に」(沼津朝日1/1)
- 1/ 4 雄翔会第3回日本画展於静岡松坂屋(-15)。
(静岡1/4, 朝日静岡版1/12)
- 1/ 伏見春信日本画展於静岡産業会館(-7)。(静岡1/6)
- 1/ パリに住んだ画家たちの洋画小品展於浜松市美術館(-20)。(静岡1/5, 10, 17, 24, 朝日遠州版1/8)
- 1/ 7 三沢憲司彫刻展於東京ときわ画廊(-12)。
- 1/ 7 市川正三アラブとヨーロッパ展於静岡三菱信託銀行(-20)。《モロッコ》他。(静岡1/11)
- 1/ 7 市川正三無言譜とその周辺展於静岡ラ・フォリア(-2/9)。(静岡1/11, 読売静岡版1/22)
- 1/10 市川清道[浩]展於清水戸田書店(-15)。
(静岡1/9, 朝日静岡版1/9, 12)
- 1/10 朝日陶芸展於浜松松菱(-15)。(朝日遠州版1/8, 12, 静岡1/13)
- 1/11 パートン・ホームズ写真展於沼津西武(-16)。(読売静岡版1/1, 朝日静岡版1/1, 沼津毎日1/13, 静岡1/1, 10)
- 1/11 平尾花笠叙勲記念書道展於静岡産業会館(-15)。
(朝日静岡版1/9, 12, 静岡1/10)
- 1/ ガントナー石版画展於静岡ギャラリー春野(-2/5)。
(静岡1/17, 24)
- 1/ 寺平誠介展於清水山茶郷(-31)。(中日静岡版1/21, 静岡1/24, 朝日静岡版1/26)
- 1/21 佐藤徹油絵展於静岡扇子屋(-31)。(読売静岡版1/20, 27, 静岡1/25, 朝日静岡版1/26, 毎日中部版1/27)
- 1/ 駒田嘉一郎・駒田かつ子展於浜松市美術館(-27)。
(読売静岡版1/27)
- 1/23 赤羽良知漆画展於清水戸田書店(-29)。
(朝日静岡版1/26, 清美協no.116)
- 1/ 清水光男・久保山正代・吉井長八郎・新堂日奈子・橋本妙子五人展於静岡ガスサロン(-27)。(静岡1/24, 25)
- 1/24 佐々木真夫富士山展於沼津天心堂(-29)。(中日静岡版1/21, 沼津朝日1/24, 静岡1/24, 朝日伊豆岳南版1/26, 毎日東部版1/27)
- 1/ 山道栄助色紙展於沼津竹村(-31)。(静岡1/24)

- 1/ 静岡画人展於静岡生土[いけど](-31)。(静岡1/25)
- 1/ 曽宮一念展於浜松ナカムラ画廊(-31)。(朝日遠州版1/26, 每日西部版1/27)
- 1/25 県民会館を存続させる会結成, 陳情。(静岡1/26, 朝日静岡版1/26, 每日中, 西部版1/26)
- 1/29 朱蓉展於静岡ガスサロン(-2/3)。
(静岡1/28, 朝日静岡版1/28)
- 1/31 豊泉隆吉展於静岡幸文堂(-2/4)。
(毎日中部版1/27, 朝日静岡版2/2)
- 1/31 青野裕彦展於清水戸田書店(-2/5)。(朝日静岡版2/2, 每日中部版2/3, 清美協no.117)
- 2/ 岡崎平一展於焼津ブーケイ(-28)。
(朝日静岡, 遠州版2/2, 静岡2/18)
- 2/ 5 平井俊男展於静岡ガスサロン(-10)。(静岡1/31, 2/7, 每日中部版2/3, 朝日静岡版2/5)
- 2/ 6 県彫刻展於県民会館(-17)。(静岡1/31, 2/7, 14, 朝日静岡版2/5)
- 2/ 7 吉野不二太郎油絵展於清水戸田書店(-12)。
(中日静岡版2/4, 清美協no.117)
- 2/ 7 江崎武男展於静岡松坂屋(-12)。(静岡2/4)
- 2/ 9 青木洋子展於沼津竹村(-11)。(中日静岡版2/4, 静岡2/7, 沼津朝日2/9)
- 2/11 佐藤真一個展於浜松画廊(-18)。(朝日遠州版2/10, 中日静岡版2/11, 静岡2/14)
- 2/14 佐々木信平個展於浜松松菱(-26)。(朝日遠州版2/13, 静岡2/14, 21, 每日西部版2/17)
- 2/14 北川民次展於東京飯田画廊(-23)。
(朝日静岡版2/13, 静岡2/18)
- 2/ 滝沢清と女流作家展於静岡生土(-25)。(静岡2/18)
- 2/21 テトラ情况展於清水戸田書店(-26)。杉山邦彦他。
(静岡2/21, 朝日静岡版2/23, 每日中部版2/24, 読売静岡版2/24, 26)
- 2/ アトリエC-126版画展於浜松ナカムラ画廊(-3/3)。
(静岡2/28)
- 2/27 高木倶を囲んで於沼津芹沢文学館。(毎日東部版2/24)
- 2/28 ピカソ六つの物語展於静岡ギャラリー春野(-3/12)。(中日静岡版2/25, 静岡2/28, 3/7, 每日中部版3/3)
- 2/28 大石和寿展於静岡松坂屋(-3/5)。

	(静岡2/27,朝日静岡版3/2)		
2/28	五十嵐二郎・鈴木延雄スケッチ二人展於浜松松菱(-3/12)。(朝日遠州版2/27,静岡3/7)	3/ 久保田賜日本画展於浜松浜松美術展示社(-4/2)。	(朝日遠州版3/26)
3/ 1	永瀬義郎新作版画展於沼津西武(-13)。(中日静岡版2/25)	3/26 桑原実個展於静岡生土(-8)。(中日静岡版3/25,静岡4/1,毎日中部版4/7)	
3/	伊藤勉版画展於静岡生土(-11)。(静岡3/4)	3/ 森正一油絵展於静岡松坂屋(-31)。(静岡3/27,29)	
3/	東郷青児展於浜松西武(-6)。(朝日遠州版3/3)	3/28 グループ風土小品展於沼津ギャラリーほさか(-4/2)。(中日静岡版3/25,沼津朝日3/27,静岡3/28,朝日伊豆岳南版3/30)	
3/	県善三郎色紙展於浜松美術展示社(-9)。(静岡3/7)	3/28 志賀旦山小品展於沼津ギャラリーほさか(-4/2)。(沼津朝日3/28,朝日伊豆岳南版3/30)	
3/ 5	県民会館所蔵作品展於県民会館(-17)。(読売静岡版2/28)	3/28 望月正枝展於静岡幸文堂(-4/8)。(静岡3/28,4/4)	
3/ 5	木村正明シルクスクリーン展於静岡ガスサロン(-10)。(静岡2/28,3/7,朝日静岡版3/5)	3/30 ソフィー・フォードン来沼。(毎日東部版4/16)	
3/ 7	坂野耿一洋画展於沼津ギャラリーほさか(-12)。(中日静岡版3/4,静岡3/7,沼津朝日3/7)	3/31 二紀会第27回展於浜松市美術館(-4/7)。(静岡3/28,4/4,朝日遠州版3/31)	
3/	大堂多嘉子作品展於焼津ブービイ(-31)。(静岡3/11)	4/ 1 県庁西館完成。県庁西館展示室出来る。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版S46.10/15,S48.3/9,読売静岡版S47.7/14,S49.3/31,4/21,中日静岡版S48.4/15,S49.3/29,31,静岡3/31,4/1,毎日東,中,西部版3/31,日経静岡版S48.3/6,S49.3/31)	
3/12	高木圭祐個展於静岡生土(-25)。(静岡3/11,18)	4/ 1 県民会館、静岡市へ管理委託される。(朝日静岡版1/26,2/11,4/11,24,毎日東,中,西部版1/26,静岡S48.5/22,S49.4/11,中日静岡版3/18,5/18,清美協no.117)	
3/14	高野良之助油絵展於沼津竹村(-19)。(沼津朝日3/13)	4/ 1 月形那比古鬼志野展於静岡松坂屋(-8)。(静岡3/25,28,31,4/3,4,5,朝日静岡版4/1)	
3/15	高崎晴嵐色紙展於浜松安田信託銀行浜松支店(-23)。(静岡3/14,朝日遠州版3/16,毎日西部版3/17,中日静岡版3/18)	4/ 1 韓国廣州窯展於静岡日本生命ビル(-4)。(静岡3/31)	
3/16	志賀旦山「合格発表」(沼津朝日3/16)	4/ 1 「活況の版画界」(静岡4/1)	
3/19	吉野鉱三展於熱海あたみシユール(-25)。(毎日東部版3/20,読売静岡版3/24)	4/ 斎藤準児グループ展於静岡ラ・フォリア(-30)。(毎日中部版4/7,読売静岡版4/16)	
3/19	林婦美子・小林悦子・金子俊子・末沢誠子・和田静香五人展於静岡ガスサロン(-25)。(静岡3/14,19,毎日中部版3/17,朝日静岡版3/23,読売静岡版3/24)	4/ 川面義雄木版画源氏物語絵巻展於静岡ギャラリー春野(-9)。(静岡4/4,毎日中部版4/7)	
3/21	袴田省三個展於沼津ギャラリーほさか(-26)。(沼津朝日3/23,毎日東部版3/24)	4/3 中川雄太郎「郷土の画人」(静岡4/3,5,7,9,10,12,14,16,17,19,22,23,27,28,5/1,3,7,8,11,13,14,15,16,17,19,21,22,25,29,30,31,6/2,3,4,6,7,8,9,12,14,15,16,17,18,21,23,24,25)	
3/21	徳力富吉郎版画展於静岡産業会館(-24)。(中日静岡版3/18,静岡3/19,朝日静岡版3/20,/23,読売静岡版3/24)	4/4 龍一之介個展於沼津ギャラリーほさか(-9)。(沼津毎日3/31,沼津朝日4/4,静岡4/4,5)	
3/	岡本透水彩画展於静岡扇子屋(-30)。(読売静岡版3/24,静岡3/25)	4/ 6 曾我清臣個展於天竜市公民館(-7)。(静岡4/8)	
3/	河原宏・小関敏夫二人展於静岡幸文堂(-26)。(静岡3/25)	4/ 8 石子順造「俗信と縁起」(静岡4/8)	
3/	岳南美術家作品展於富士市民会館(-31)。(朝日伊豆岳南版3/30)	4/ 8 寺平誠介「美の探索」(静岡4/8,12)	

- | | | | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4/10 | 佐野のり子展於伊東觀光会館(-15)。
(毎日東,中,西部版4/7) | 4/25 | 丸山力生展於清水戸田書店(-30)。
(朝日静岡版4/27,毎日中部版4/28) |
| 4/ | 県善三郎展於浜松松菱(-16)。
(中日静岡版4/8,毎日東,中,西部版4/14) | 4/ | 大谷憲智《岡野豪夫胸像》除幕式於三島駿河銀行
三島支店。(沼津朝日4/23) |
| 4/11 | 県善三郎色紙展於浜松浜松美術展示社(-21)。
(静岡4/11,朝日遠州版4/11) | 4/ | アンドレ・ドラン木版画展於静岡ギャラリー春野
(-5/7)。(静岡4/25,毎日中部版4/25,朝日静岡版
4/27) |
| 4/12 | 安井曾太郎賞受賞作家展於沼津西武(-24)。
(中日静岡版4/8,沼津朝日4/11,静岡4/11) | 4/28 | 杉山青樹路滯欧作品展於新静岡センター(-5/5)。
(静岡4/18,25,毎日中部版4/21,読売静岡版4/21,
朝日静岡版4/27) |
| 4/12 | ピカソ大回顧展於新静岡センター(-21)。(朝日伊豆
岳南,静岡,遠州版3/18,4/7,13,読売静岡版3/21,
24,4/3,毎日東,中,西部版3/29,4/6,静岡4/1,11,18,
中日静岡版4/9,10,11,12,13,18,19,20) | 4/28 | 曾宮一念の画業展於浜松市美術館(-5/31)。曾宮
一念講演会(5/12)。(中日静岡版4/22,静岡4/25,
26,5/2,3,9,16,30,朝日静岡版4/28) |
| 4/12 | 柏木俊秀油絵展於静岡松坂屋(-16)。(静岡4/11,
朝日伊豆岳南,静岡,遠州版4/13,読売静岡版4/14) | 4/22 | 第48回国画会展於東京都美術館(-5/8)。 |
| 4/13 | 田宮千穂展於静岡西武(-17)。(朝日静岡版4/13) | 4/22 | 第51回春陽会展於東京都美術館(-5/8)。
入選者。(静岡4/26) |
| 4/14 | 三澤佐助逝去。82歳。(静岡4/15,16) | 4/30 | 三島樂寿園樂壽館公開(-7/末)。(静岡4/28) |
| 4/15 | 第4回日影展於東京都美術館(-5/3)。
澤田政廣《舞妓》下山昇《ペンダント》杉本宗一《酒》
堤達男《波》飛岡文一《老学長》松田裕康《若い女》
平馬学《青い帽子》山本利治《母と子》和田金剛《人
魚》 | / | 杉山良雄『姫街道スケッチ画帖』刊行。
(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版5/4,19) |
| 4/16 | 竹内重行油絵作品展於浜松市美術館(-21)。
(静岡4/11,18,朝日静岡版4/15) | 5/ 1 | 市川正三、県文化奨励賞受賞。(静岡4/27,朝日伊
豆岳南,静岡,遠州版4/27,読売静岡版4/27,毎日
東,中,西部版4/30) |
| 4/17 | 赤堀正巳個展於静岡ガスサロン(-21)。(静岡
4/11,18,毎日中部版4/14,朝日静岡版4/17) | 5/ 1 | 竹内勝行近作展於焼津ブービイ(-31)。
(読売静岡版5/14,県油協no.12) |
| 4/ | 佐々木真夫・末永利夫・天笠義一・猪瀬踏花展於沼
津天心画廊(-22)。(沼津朝日4/17,静岡4/18) | 5/ 2 | 県油彩美術家協会第2回展於県庁西館展示室(-6)。
(朝日静岡版4/14,5/4,毎日東,中,西部版4/21) |
| 4/18 | 太田吉比古油絵個展於浜松市美術館(-21)。
(朝日遠州版4/18,静岡4/18) | 5/ 2 | 恩田秋夫木版画展於浜松松菱(-14)。(朝日遠州版
4/30,静岡5/2,9,毎日西部版5/5) |
| 4/20 | シャトラン仏美術館局長、ビュフェ美術館訪問。
(沼津毎日4/20) | 5/ | 平井碩堂・杉山聰泉展於清水戸田書店(-7)。
(朝日静岡版5/4) |
| 4/20 | 伊藤勉個展於大井川農協(-22)。(静岡4/18) | 5/ | 島崎増雄墨彩展於静岡生土(-7)。(朝日静岡版
5/4) |
| 4/21 | 水野以文逝去。享年83。(美術年鑑S49.50) | 5/ | 山本友三展於静岡谷島屋書店(-7)。
(朝日静岡版5/4) |
| 4/ | 松井叔生展於沼津西武(-25)。(中日静岡版4/22) | 5/ 6 | 武者小路実篤米寿展於清水戸田書店(-11)。
(清美協no.121) |
| 4/ | 増田大豊個展於静岡幸文堂(-30)。(中日静岡版
4/22,静岡4/26,朝日静岡版4/27) | 5/ | 一周年記念展於浜松浜松美術展示社(-11,-16)。
(朝日遠州版5/7,14) |
| 4/23 | 市川鉢次個展於静岡ガスサロン(-28)。(静岡4/18,
25,読売静岡版4/21,朝日静岡版4/23) | 5/ 7 | 田端清勝日本画展於静岡ガスサロン(-12)。(朝日静
岡版5/7,静岡5/9,10,読売静岡版5/12) |
| 4/ | 野上魏個展於静岡生土(-28)。(静岡4/22) | 5/ 9 | 保田龍門《吉田松蔭像》南伊豆地震にて落下破損。 |
| 4/25 | 三島市美術協会第1回展於三島伊伝ビル(-29)。
(静岡4/25) | | |

5/ 9	静流会第29回展於ギャラリーほさか・竹村(-14)。 (朝日伊豆岳南版5/8, 沼津朝日5/8, 10, 12, 静岡5/9)	静岡5/23, 25, 每日西部版5/26, 中日静岡版5/27)
5/ 9	高野良之助近作展於静岡生土(-21)。 (静岡5/17, 19, 20, 県油協no.12)	5/24 藤本東一良展於東京日動サロン(-31)。
5/	滝平二郎きり絵展於浜松松菱(-14)。 (静岡5/11, 中日静岡版5/12)	5/24 鈴木貞夫個展於浜松西武(-29)。(静岡5/23, 24, 朝日遠州版5/23, 每日西部版5/26, 中日静岡版5/27)
5/11	澤田政廣名譽市民顕彰式於熱海市役所。(静岡S48.12/19, S49.5/13, 每日東部版S48.12/29, 東, 中, 西部版5/12)	5/25 新制作協会から日本画部が離脱し創画会結成。秋野不矩会員となる。(静岡5/31)
5/11	澤田政廣展於熱海市文化会館(-13)。 (毎日東, 中, 西部版5/12, 静岡5/13)	5/30 静松会第3回展於静岡松坂屋(-6/4)。(静岡5/29, 31)
5/11	吉野不二太郎個展於静岡産業会館(-16)。 (静岡5/9, 13, 讀壳静岡版5/12)	6/ 3 「世界のガラス絵」(中日静岡版6/3, 5, 6, 7, 11, 13, 17, 18, 20, 21, 24, 25, 26, 27, 28, 7/1, 2, 4, 5, 9, 10, 11, 12, 15, 16, 17, 18, 19, 22, 26, 29, 30, 31, 8/1, 2, 5, 6, 7, 8, 9, 12, 13, 14, 16, 19, 20, 21, 23, 26, 27, 28, 29, 30)
5/11	日吉秀洋画個展於静岡産業会館(-16)。 (静岡5/9, 朝日静岡版5/12)	6/ 2 木津悠志個展於静岡ガスサロン(-9)。(静岡5/30, 6/6, 每日中部版6/2, 朝日静岡版6/3)
5/13	青木栄一油絵展於清水戸田書店(-18)。 (毎日中部版5/19, 清美協no.121)	6/ 4 壮炎会展於浜松市美術館(-9)。(静岡5/30, 6/6, 讀壳静岡版6/1, 2, 朝日遠州版6/3)
5/13	井上市三郎スケッチ展於東京あり円画廊(-19)。 (県油協no.12)	6/ 6 萩焼大和松緑陶芸展於沼津ギャラリーほさか(-10)。(沼津毎日6/2, 5, 6, 7, 沼津朝日6/4, 5, 6, 7, 8)
5/	秋山二三九個展於焼津ジャスコ(-20)。(静岡5/16)	6/ 6 武者小路実篤祝寿展於清水戸田書店(-11)。(静岡6/7)
5/	萩萩月、天竜市に作品寄贈。 (中日静岡版5/17, 静岡6/10)	6/ マンズー《インゲの胸像》ビュフェ美術館。 (沼津朝日6/8)
5/16	風土展第14回展於沼津ギャラリーほさか(-21)。 (沼津朝日5/11)	6/ 岐部兆治個展於静岡生土(-17)。(静岡6/14)
5/16	長谷川栄一水彩画展於静岡幸文堂(-21)。(読壳静岡版5/12, 静岡5/17, 20, 朝日静岡版5/18, 每日中部版5/19)	6/13 本田政民油彩展於沼津ギャラリーほさか(-18)。 (沼津朝日6/14)
5/16	李朝安南古陶磁展於静岡松坂屋(-21)。 (静岡5/15, 16, 朝日静岡版5/15)	6/15 赤堀正巳個展於藤枝ムトウ(-24)。 (静岡6/13, 20, 朝日静岡版6/15)
5/	《小野豊伊豆長岡町長胸像》完成。(静岡5/20)	6/18 藤野嘉市個展於静岡生土(-7/1)。(朝日静岡版6/18, 静岡6/20, 21, 27, 每日中部版6/23)
5/20	駿府と勝海舟展於駿府博物館(-6/30)。(静岡5/16, 20)	6/ 田中哲夫個展於浜松市美術館(-23)。 (静岡6/20, 朝日遠州版6/20)
5/23	堀池慶作・鈴木康司・藤波修三三人展於清水戸田書店(-28)。清水百景。(静岡5/26)	6/ アイオーブ版画展於浜松ナカムラ画廊(-21)。 (朝日遠州版6/16, 静岡6/20)
5/23	静岡二紀選抜展於静岡生土(-6/3)。(静岡5/23, 27, 30)	6/20 日府展秀作展於沼津ギャラリーほさか(-25)。(静岡6/13, 20, 沼津朝日6/19, 朝日伊豆岳南版6/19)
5/	寺平誠介日本画展於静岡三菱信託銀行静岡支店(-6/10)。(静岡5/27, 朝日静岡版6/1)	6/20 山田光造石版画展於ギャラリーほさか(-25)。 (静岡6/13, 朝日伊豆岳南版6/18, 沼津朝日6/19, 每日東部版6/23)
5/23	曾宮一念展於静岡松坂屋(-6/4)。 (静岡5/24, 朝日静岡版6/1)	6/20 成瀬憲油彩小品展於沼津イナノ(-25)。(朝日伊豆岳南版6/20, 沼津朝日6/21, 每日東部版6/23)
5/23	求正美個展於浜松松菱(-28)。(朝日遠州版5/22,	6/20 三輪進一個展於浜松市中央図書館(-23)。(静岡

- | | |
|---------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 6/11) | |
| 6/25 杉山松平個展於靜岡ガスサロン(-30)。
(靜岡6/20,27,朝日靜岡版6/24) | 7/ 平野貞一《宝来》岡部町立石神社に奉納。(靜岡
7/19) |
| 6/27 志賀旦山、沼津朝日賞受賞。(沼津朝日6/22,29) | 7/20 創元会第33回浜松展於浜松市美術館(-28)。
(靜岡7/11,18,25,毎日西部版7/14,朝日遠州版
7/20,8/24) |
| 6/27 県版画協会第39回展於県庁西館展示室(-30)。
(靜岡6/17,20,27) | 7/23 柴田秀二家族展於靜岡ガスサロン(-28)。
(靜岡7/11,18,毎日中部版7/14) |
| 6/28 寺田篤正作品展於浜松市美術館(-7/7)。
(靜岡6/27,7/1,朝日遠州版6/30) | 7/ アントニーニ・ドベール・フィニー版画展於浜松ナカ
ムラ画廊(-31)。(靜岡7/25,26,朝日遠州版7/28) |
| 7/ 1 高柳千賀子個展於靜岡扇子屋(-9)。
(朝日靜岡版6/29,靜岡7/6) | 7/25 日吉秀個展於沼津ギャラリーほさか(-30)。(沼津每
日7/24,朝日伊豆岳南版7/27,靜岡7/29,毎日東部
版7/28) |
| 7/ 2 県二科第1回展於靜岡産業会館(-7)。(朝日伊豆岳
南,靜岡,遠州版4/1,7/1,静岡2/1,7/4,朝日靜岡
版7/1) | 7/25 児島輝郎展於富士富士画廊(-8/4)。(靜岡7/26) |
| 7/ 2 明治の石版画展於浜松市美術館(-28)。
(靜岡6/17,27,7/2,11,18,朝日遠州版7/2) | 7/25 青木一郎展於清水戸田書店(-30)。(清美協no.122) |
| 7/ 児島輝郎個展於靜岡生土(-16)。(靜岡7/4,6,11) | 7/25 水島裕日本画展於靜岡松坂屋(-30)。
(読壳靜岡版7/21,朝日靜岡版7/27) |
| 7/ 山田収《法然上人像》(富士市清岩寺)原型完成。
(靜岡7/4) | 7/25 天竜彫刻の森(~9/10)。(読壳靜岡版7/26,中日駿
遠版8/21,毎日靜岡版9/6,靜岡9/20) |
| 7/ 4 土龍会第3回展於靜岡松坂屋(-10)。
(靜岡7/1,5,朝日靜岡版7/6) | 7/ 岩田仙太郎展於靜岡西武(-31)。(朝日靜岡版
7/27,28) |
| 7/ 7 七夕豪雨文化財被害。(靜岡S50.1/23) | 8/ 1 『北川民次画集』刊行。 |
| 7/ 7 一陽会遠州グループ第1回展於浜松元城アート
ギャラリー(-14)。(靜岡7/4,11,15,朝日遠州版7/6) | 8/ 1 鈴木慶則楳円絵画個展於靜岡松坂屋(-6)。
(靜岡7/29,31,8/1,5,読壳靜岡版8/4) |
| 7/ 堤達男《凌雲の像》三島南高校。
(靜岡7/11,毎日東部版8/31) | 8/ 赤堀正巳個展於焼津ブービイ(-31)。
(靜岡8/5,朝日靜岡版8/10) |
| 7/11 橋本昌己個展於沼津ギャラリーほさか(-16)。
(靜岡7/11) | 8/ 烏合会第1回展於靜岡三菱信託銀行靜岡支店
(-12)。(靜岡8/5,朝日靜岡版8/8) |
| 7/ 小林洋子展於靜岡谷島屋書店(-16)。
(朝日靜岡版7/11) | 8/ 5 市野三接書作展於浜松美術展示社(-18)。
(朝日遠州版8/5) |
| 7/13 市野三接展於浜北グリーン会館(-21)。
(靜岡7/15,18) | 8/ 6 小山勇個展於靜岡ガスサロン(-11)。
(靜岡8/5,8,朝日靜岡版8/10) |
| 7/ 内田公雄個展於靜岡永田画廊(-21)。
(靜岡7/15,18,毎日中部版7/21) | 8/ 8 堤達男《石内直太郎胸像》沼津市立高校。(沼津朝
日7/28,8/4,11,13,14,毎日東部版7/29,8/9) |
| 7/16 秋山二三九個展於靜岡ガスサロン(-21)。
(朝日靜岡版7/15,靜岡7/18) | 8/ 8 清水画人展於清水戸田書店(-13)。(靜岡7/29,
8/1,8,朝日靜岡版8/10,毎日中部版8/11,清美協
no.123) |
| 7/ 緑青会日本画展於靜岡松坂屋(-23)。
(朝日靜岡版7/20) | 8/ 9 三輪雅章作陶展於浜松西武(-14)。(靜岡8/8,朝日
遠州版8/10,毎日西部版8/11) |
| 7/18 県美術家連盟第11回展於県庁西館展示室(-21)。
(靜岡7/11,18,毎日靜岡版7/11,朝日靜岡版7/15) | 8/ 《石内直太郎胸像》除幕式於沼津市立高校。
(靜岡8/12) |
| 7/18 清水の画人展於靜岡生土(-31)。
(靜岡7/27,清美協no.122) | 8/12 織田広喜・三尾公三版画展於三島V8画廊(-18)。 |

(中日静岡版8/12)	8/31 志賀旦山「線のささやき」(沼津朝日8/31)
8/14 現代日本画秀作展於富士吉原市民文化会館(-16)。 (静岡8/13)	8/31 小林淳子展於焼津市民センター(-9/2)。(静岡 8/29)
8/15 朝比奈玄甫展於静岡産業会館(-18)。 (朝日静岡版8/8,13,毎日中部版8/18)	9/ 1 第59回二科展於東京都美術館(-20)。 北川民次《少年像》
8/16 高野良之介個展於清水戸田書店(-20)。 (清美協no.123)	入選者発表。(沼津毎日8/31,郷土11/2)
8/ 谷内六郎木版画展於沼津西武(-28)。(沼津朝日 8/17)	9/ 1 第29回行動展於東京都美術館(-20)。 鈴木久雄《P3814足のある風景》no.19行動美術賞 受賞。
8/ 西川実・宇野徹・加藤敏雄茶陶三人展於静岡生土 (-27)。(静岡8/17)	9/ 1 香月泰男の木版画とリトグラフ展於静岡ラ・フォリア (-30)。(朝日静岡版9/1,静岡9/5,9,12,読売静岡版 9/15)
8/ 伊藤応久・小無田泉・石井伝三展於浜松ギャラリー 花菱(-31)。(朝日遠州版8/17)	9/ 3 グループA&A作品展於静岡ガスサロン(-8)。 (静岡8/29,9/5,読売静岡版9/1,3)
8/ 西野正光展於浜松市美術館(-23)。(朝日遠州版 8/19)	9/ 5 青木一郎展於清水戸田書店(-10)。 (朝日静岡版9/5,毎日中部版9/8)
8/ 光風会静岡支部展於県民会館(-25)。 (朝日静岡版8/25)	9/ 5 村上肥出夫油絵展於静岡松坂屋(-10)。(静岡 9/4,9)
8/20 七人彫刻展於浜松ナカムラ画廊(-26)。 (静岡8/19,22,朝日遠州版8/20,24)	9/ 5 朱容会展於静岡幸文堂(-10)。(読売静岡版9/3,静 岡9/7,朝日静岡版9/7,毎日中部版9/8)
8/21 柴田哲裕イラスト展於清水戸田書店(-27)。 (清美協no.123)	9/ 7 富士宮画人第1回展於静岡生土(-10)。(静岡9/7)
8/21 県写真展於新静岡センター(-26)。 (朝日伊豆岳南,静岡,遠州版4/7)	9/ 7 大久保一丘展於浜松市美術館(-10/6)。9/15講演 会講師:成瀬不二男。(静岡8/26,9/5,8,12,26,中 日静岡版8/30,毎日西部版9/6,朝日遠州版9/7)
8/22 琉球焼三人展於静岡松坂屋(-27)。(静岡8/19,22, 23,朝日静岡版8/22,読売静岡版8/25)	9/ 7 清水秀耕、滝本雅泉、杉井寛策、山田季幸、高齢に 肖像画寄贈。(静岡9/10,12,13)
8/ 武山敏江展於静岡幸文堂(-27)。(朝日静岡版8/24)	9/10 下村恵輝個展於静岡ガスサロン(-15)。(静岡 9/5,9,12,毎日中部版9/8,朝日静岡版9/10)
8/23 ソフィー・フォードン展於沼津ギャラリーほさか (-25)。(沼津朝日8/16,毎日東部版8/18,24,静岡 8/19,22,毎日静岡版8/20,読売静岡版8/22)	9/11 「渡辺妙子さん」(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/11)
8/ 荻野加寿子展於静岡ピカソ(-28)。 (静岡8/22,読売静岡版8/25)	9/11 漆畠弥一「庵原と司馬江漢」(静岡9/11)
8/24 木谷評・木谷敬子展於浜松市美術館(-28)。 (静岡8/22)	9/12 高見沢手摺木版画浮世絵展於静岡松坂屋(-16)。 (静岡9/9,12,13)
8/24 素心会展於浜松元城アートギャラリー(-26)。 (朝日遠州版8/24)	9/12 三井永一さし絵展於清水戸田書店(-17)。(静岡 9/12,14,朝日静岡版9/12,毎日中部版9/15,読売静 岡版9/15)
8/26 複数による「複数展」於東京村松画廊(-9/1)。 (静岡8/24)	9/13 市川正三《パリ風景》(静岡9/13,20,26)
8/27 創型会第2回展於静岡ガスサロン(-9/1)。 (静岡8/24,29,朝日遠州版8/24)	9/13 西嶺会第1回展於沼津西武(-25)。(静岡9/12,19)
8/29 長谷川安信版画個人展於浜松市美術館(-9/1)。 (静岡8/29,9/2)	9/13 県水彩画協会第24回展於県庁西館展示室(-16)。 (静岡9/5,12,読売静岡版9/10,15)
	9/ 9 ピカソ版画展於静岡ギャラリー春野(-24)。 (朝日静岡版9/14,毎日中部版9/22)

- | | | | |
|-------|------------------------------------------------------------------------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9/14 | 県現代工芸第6回展於富士文化センター(-16)。
(静岡9/5) | 10/ | 山田安展於静岡ラ・フォリア(-31)。
(朝日静岡版10/26) |
| 9/14 | 松林トミ夫展於静岡住友信託銀行静岡支店(-14)。
(朝日静岡版9/10, 静岡9/14) | 10/ 2 | 全国博物館協会大会於静岡市民文化会館。
(静岡10/3) |
| 9/14 | 静岡古美術館広告。(静岡9/14) | 10/ 3 | 吉川華園書展於沼津ギャラリーほさか(-8)。
(沼津朝日10/1) |
| 9/17 | 増田大豎水墨扇面画展於静岡ガスサロン(-22)。
(静岡9/12, 読売静岡版9/15) | 10/ 3 | 森田与四郎小品展於沼津駅名店街(-15)。
(静岡9/26, 10/4) |
| 9/19 | 山口午郎油絵展於沼津ギャラリーほさか(-24)。
(静岡9/12) | 10/ 3 | 市川正三小品展於清水戸田書店(-8)。《雨の窓辺》
ほか。(朝日静岡版10/2, 伊豆岳南, 静岡, 遠州版
10/5, 每日中部版10/6, 読売静岡版10/6, 静岡10/7) |
| 9/19 | 静松会第4回展於静岡松坂屋(-24)。
(静岡9/18, 朝日静岡版9/21) | 10/ | 旺玄社静岡支部展於静岡谷島屋書店(-8)。
(朝日静岡版10/5) |
| 9/19 | 県工芸協会20周年展於静岡産業会館(-24)。(読売
静岡版9/15, 22, 朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版9/21) | 10/ 4 | 杉山良雄展於静岡谷島屋書店(-8)。(毎日中部版
9/18) |
| 9/ | 彫刻の森作品展於天竜市役所(-30)。
(静岡9/20, 12/29) | 10/ 8 | アートヴァージン展於県庁西館展示室(-14)。(毎日
中部版10/6, 読売静岡版10/6, 静岡10/7, 9, 17, 朝日
静岡版10/14) |
| 9/20 | 堤達男《雄飛の像》除幕式於松崎高校。(静岡8/29,
毎日静岡版9/7) | 10/ 8 | 戸塚秀三展於県庁西館展示室(-14)。(静岡10/3) |
| 9/21 | 「天野知明さん」(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版9/21) | 10/ 9 | 深沢富直「もっと名画鑑賞を」(静岡10/9) |
| 9/21 | 県日本画協会第1回展於県庁西館展示室(-23)。
(読売静岡版8/11, 9/15, 静岡9/19) | 10/10 | 写実派協会展於県庁西館展示室(-14)。
(静岡10/9, 朝日静岡版10/12) |
| 9/22 | 複数による「複数展」於東京 現代芸術センター
(-28)。 | 10/ | 森田与四郎展於沼津富士急(-15)。
(毎日東部版10/13) |
| 9/23 | 第38回新制作展於東京都美術館(-10/10)。
新入選者。(読売静岡版10/6) | 10/ | 大石靖展於三島V8画廊(-16)。(毎日東部版10/13) |
| 9/23 | 第21回一陽会展於東京都美術館(-10/10)。
入選者。(静岡9/21, 朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版
9/21, 読売静岡版10/6) | 10/12 | 第28回二紀会展於東京都美術館(-30)。
新入選者。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版10/13) |
| 9/ | 松浦英章展於浜松ナカムラ画廊(-28)。(静岡9/26) | 10/12 | 第42回独立展於東京都美術館(-30)。
(読売静岡版10/8) |
| 9/ | 大久保泰新作展於浜松ギャラリー花菱(-30)。
(静岡9/26) | 10/14 | 第3回複数による「複数展」於東京村松画廊(-20)。 |
| 9/27 | 新制作展於静岡西武(-10/2)。(静岡9/26) | 10/15 | 川端政雄個展於静岡ガスサロン(-20)。
(静岡10/7, 9, 17, 朝日静岡版10/13) |
| 9/ | 小野忠重版画展於静岡生土(-8)。(静岡9/28,
10/5) | 10/ | 新槐樹社県支部第16回展於県庁西館展示室(-20)。
(静岡10/17, 24, 朝日静岡版10/18) |
| 9/28 | 第4回神戸須磨離宮公園現代彫刻展(-11/10)。
宮脇愛子《立方体の偏位》 | 10/17 | 印象派百年展於静岡松坂屋(-29)。(読売静岡版
10/7, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 24, 26, 29, 静岡8/5,
9/27, 10/2, 9, 11, 13, 16, 18, 23, 朝日伊豆岳南, 静岡,
遠州版10/17, 每日東, 中, 西部版10/17) |
| 9/ | 徳井義明展於浜松西武(-10/2)。(朝日遠州版10/2) | 10/ | 鈴木和夫展於清水戸田書店(-22)。
(朝日静岡版10/19) |
| 9/30 | 内田六郎逝去。(静岡9/30, 朝日静岡, 遠州版10/1,
20) | 10/ | 高木圭祐個展於静岡生土(-22)。(静岡10/14) |
| 10/ 1 | 海野光弘版画展於静岡ガスサロン(-6)。
(静岡9/26, 28, 10/3, 5, 読売静岡版10/6) | | |
| 10/ | 沼津アート学院開講。(沼津朝日9/26) | | |

- | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 10/ ユトリロ・キスリング西洋巨匠2人展於静岡松坂屋(-22)。(朝日静岡版10/19) | 10/31 野中春士展於浜松遠鉄(-11/5)。(静岡10/28) |
| 10/18 「石渡三夫」(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版10/18) | 10/31 わが家のたからびようぶ絵展於焼津市民文化センター(-11/2)。(静岡11/1) |
| 10/18 加藤清之輔写真展於沼津竹村(-20)。(沼津朝日10/15, 静岡10/17, 朝日伊豆岳南版10/18, 読売静岡版10/19, 沼津毎日10/20) | 10/ 杉山照治・杉山瑛子二人展於静岡谷島屋書店(-11/5)。(静岡11/2, 朝日静岡版11/2, 毎日中部版11/3) |
| 10/18 山下清の東海道五十三次と秀作展於榛原講堂(-20), 天竜市農林センター(25-27)。(静岡10/18, 25) | 11/ 1 第6回日展於東京都美術館(-12/6)。 |
| 10/ 高田誠一郎展於静岡中央信託銀行静岡支店(-31)。(朝日静岡版10/19) | 堤達男《惟い》松田裕康《ともしび》(朝日伊豆岳南版10/7) |
| 10/22 獅子吼真一周忌展於静岡ガスサロン(-27)。(静岡10/17, 29) | 新入選者。(毎日東, 中, 西部版10/24) |
| 10/ ジェームズ・クバビル来静。(静岡10/25) | 11/ 1 日本の書展と郷土の書道家50人展於静岡西武(-6)。(静岡10/31, 11/2, 毎日中部版11/3, 朝日静岡版11/3) |
| 10/ 陶山侃油絵展於静岡生土(-11/5)。(静岡10/24, 31) | 11/ 1 BUI展於静岡扇子屋(-10)。(静岡10/26, 毎日中部版11/10) |
| 10/24 推古絵展於沼津ギャラリーほさか(-28), 静岡三菱信託銀行静岡支店(-11/15)。(沼津朝日10/16, 静岡10/24, 11/9, 沼津毎日10/25) | 11/ 2 萩萩月展於沼津ギャラリーほさか(-4)。(静岡10/16, 29) |
| 10/24 安倍修三郎日本画展於沼津富士急(-29)。(静岡10/21, 24, 沼津朝日10/24) | 11/ 2 芹沢鉢介の五十年展於岡山天満屋(-13)。(美術年鑑S.49・50) |
| 10/24 青木達弥個展於静岡松坂屋(-29)。(静岡10/23, 26, 朝日静岡版10/26) | 11/ 《旧周智郡役場》移転、森町郷土資料館に改修。(朝日遠州版9/20, 静岡11/14) |
| 10/ 川端政雄個展於清水戸田書店(-29)。(静岡10/24, 朝日静岡版10/26) | 11/ 3 杉本英一個展於沼津ギャラリータケイ(-10)。(沼津朝日11/2, 3 静岡11/7, 毎日東部版11/10) |
| 10/ 杉村勇油絵個展於静岡幸文堂(-29)。(静岡10/24, 朝日静岡版10/26) | 11/ 3 松下忠雄展於小笠体育館(-5)。(静岡10/28, 朝日遠州版10/30) |
| 10/ 伊藤勉スケッチ素描展於ギャラリー春野(-29)。(静岡10/26) | 11/ 3 相生垣瓜人展於浜松日管興業ビル(-10)。(毎日西部版11/3, 静岡11/4, 朝日遠州版11/6) |
| 10/27 伊藤勉「県下の美術館めぐり」(静岡10/27) | 11/ 八木洋行写真展於藤枝滝ノ谷協同製茶組合(-10)。(静岡11/9) |
| 10/27 保田龍門《吉田松蔭像》前で4年ぶりの顕彰祭。(静岡10/28) | 11/ 7 志賀旦山なくさ会創立20周年展於沼津ギャラリーほさか(-12)。(沼津朝日11/7) |
| 10/28 高野良之助《早春の中木》南伊豆町へ寄贈される。(静岡10/29) | 11/ 7 静流会小品第29回展於沼津ギャラリーほさか(-12)。(沼津朝日11/7, 8) |
| 10/29 松野崇写真展於静岡ガスサロン(-11/2)。(静岡10/26, 31) | 11/ 7 月山貞一展於静岡松坂屋(-9)。(静岡11/4, 朝日静岡版11/9) |
| 10/30 南豊個展於県庁西館展示室(-11/5)。(静岡10/24, 朝日静岡版10/30) | 11/ 松井東爾油絵展於清水戸田書店(-12)。(朝日静岡版11/6, 静岡11/7, 読売静岡版11/10) |
| 10/31 上田桑鳩展於沼津富士急(-11/5)。(沼津朝日10/25, 11/1, 毎日東部版11/1, 静岡10/31, 11/3) | 11/ 青木一郎個展於静岡ギャラリー春野(-12)。(静岡11/11) |
| 10/31 尚友会20周年記念展於沼津富士急(-11/5)。(沼津朝日10/25, 毎日東部版11/1) | 11/ 塚田誠油彩展於静岡幸文堂(-12)。(朝日静岡版11/6, 静岡11/9, 毎日中部版11/10) |

- | | | |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 11/ 11/23 | 松田裕康《海のあけぼの》松崎三浦小学校。
(静岡11/10) | 杉山晃作陶展於沼津大手町会館(-25)。(沼津朝日
11/10,22,沼津毎日11/20,12/1,毎日東部版11/24) |
| 11/ 9 11/23 | 中村宏個展於東京中野紅画廊(-23)。 | 伊豆美術クラブ展於修善寺伊豆中央農協(-26)。
(静岡11/20) |
| 11/ 9 11/24 | 重岡建治「彫刻の都ローマ」(静岡11/9) | 県造形協会小品実験展於藤枝ムトウ(-12/7)。
(静岡12/5,清美協no.127) |
| 11/ 9 11/25 | 水野欣三郎《内山昇胸像》除幕式於浜松県立農業
経営高校。(静岡10/16) | |
| 11/12 11/26 | 古田晴久個展於浜松遠鉄(-17)。
(朝日遠州版11/12, 静岡11/14) | 杉山有個展於東京和光ホール(-30)。(静岡11/25) |
| 11/13 11/27 | 県芸術祭第14回於県庁西館・産業会館・新静岡セ
ンター(-17)。審査員:西村桂洲, 松風栄一, 木下繁,
山口源, 伊藤勉, 海野光弘, 稚田一穂, 柴田祐作, 金
丸重嶺, 辻弘, 武藤達郎, 坪井茂, 杉全直、中谷泰。
(静岡7/30, 11/7, 14, 毎日東, 中, 西部版11/10, 13,
朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版11/13, 17, 讀壳静岡版
11/16) | 芸林社第1回展於静岡ガスサロン(-12/1)。
(読壳静岡版11/16, 静岡11/21, 28) |
| 11/14 11/28 | 風土展第15回展於沼津ギャラリーほさか(-19)。
(読壳静岡版11/10, 沼津朝日11/12, 16, 静岡11/7) | 松晨会日本画展於浜松松菱(-12/2)。(静岡11/28) |
| 11/ 11/29 | 豊島春彦展於清水戸田書店(-19)。
(朝日静岡版11/16, 読壳静岡版11/16) | 大石士郎・梅崎勉展於静岡生土(-12/3)。
(朝日静岡版11/30) |
| 11/ 11/30 | 沢野井信夫展於静岡松坂屋(-19)。
(読壳静岡版11/16) | 藤原雄 陶展於静岡西武(-12/4)。(静岡11/28,
12/2) |
| 11/ 11/30 | 鈴木篤個展於静岡生土(-19)。(静岡11/11) | 田中登「フランスの地方美術館」(静岡11/30, 12/2) |
| 11/15 12/ 1 | 石上茂写真展於沼津竹村(-17)。(沼津朝日11/14,
17, 静岡11/14, 每日東部版11/17) | 成川勝己・ロサンゼルスセリザワ画廊で個展開催予
定。(静岡6/8) |
| 11/19 12/ 2 | 求正美個展於静岡ガスサロン(-25)。
(静岡11/14, 21, 朝日静岡版11/23) | 可知洋二展於静岡扇子屋(-10)。(朝日静岡版11/30) |
| 11/ 12/ 3 | 松風栄一陶芸展於静岡永田画廊(-25)。
(静岡11/23, 每日中部版11/24) | 高柳千賀子個展於静岡ラ・フォリア(-29)。
(朝日静岡版12/2, 静岡12/5, 12, 16, 19) |
| 11/20 12/ 3 | 行動美術第29回展於浜松市美術館(-26)。
(毎日西部版11/17, 静岡11/21) | 北川民次画集出版記念展於名古屋日動画廊(-14)。 |
| 11/21 12/ 3 | 一枚の絵現代秀作洋画市於浜松遠鉄(-25)、於富士
パピー(27-12/1), 于静岡静岡新聞別館(12/5-9)。
小林和作《秋山》ほか。(静岡11/16, 20, 26, 28,
12/4, 5) 新井康須雄《春の御岳》静岡市に寄贈。
(静岡12/5) | 木津悠志個展於静岡ガスサロン(-8)。(静岡11/28,
12/5, 朝日静岡版12/3, 每日中部版12/6) |
| 11/21 12/ 5 | 平井俊男還暦記念展於清水戸田書店(-26)。(静岡
11/20, 21, 23, 朝日静岡版11/21, 清美協no.127) | 芹澤鉢介顕彰会、静岡市に美術館建設を陳情。
(静岡12/4, 28) |
| 11/ 12/ 5 | 斎藤重司展於清水戸田書店(-26)。
(毎日中部版11/24) | 戸塚秀三・粟野喜久司ウキウキ彫刻展於静岡谷島
屋書店(-10)。(静岡11/28, 12/2, 5) |
| 11/21 12/ 10 | 鈴木三朝展於浜松松菱(-26)。(静岡11/21, 每日西
部版11/21, 朝日遠州版11/23) | 大木克哉・小倉洋・白岩崇 仏蘭西写真展於静岡ガ
スサロン(-15)。(静岡11/28, 12/2, 5, 12, 朝日静岡版
12/7) |
| 12/11 12/ 11 | | 古沢岩美水彩スケッチ展於静岡松坂屋(-16)。(毎日
中部版12/8, 静岡12/10, 朝日静岡版12/14) |
| 12/12 12/ 12 | | 山本利治彫刻展於沼津竹村(-16)。(沼津朝日
12/12, 静岡12/12, 朝日静岡版12/14) |
| 12/12 12/ 12 | | 前島秀章・海野光弘・中條峰雄 静粹会第3回展於
静岡西武(-18)。(毎日中部版12/1, 15, 静岡12/2, 14,
朝日静岡版12/14) |
| 12/12 12/ 12 | | 武藏野美術大学OB展於静岡生土(-17)。
(静岡12/14, 朝日静岡版12/14, 県油協no.13) |

- 12/ 増田大豎展於靜岡幸文堂(-17)。(毎日中部版12/1, 6, 朝日靜岡版12/14)
- 12/15 落合英男個展於靜岡疋野(-22)。(靜岡12/12, 19, 朝日靜岡版12/21)
- 12/ 県善三郎《ベンキ屋の一隅》(昭和40年第8回日展) 浜松市美術館へ寄贈。(靜岡12/16)
- 12/17 平岡耕一郎展於浜松市美術館(-22)。(静岡12/5, 12)
- 12/19 寺平誠介展於清水戸田書店(-24)。(読壳静岡版12/14, 朝日静岡版12/21, 每日中部版12/22)
- 12/23 「版画 新しい美術の流れ」(静岡12/23, 25, S50.1/6, 18, 20)
- 12/ 青山康一小品展於靜岡幸文堂(-1/5)。(静岡12/31)
- 1975 昭和50年**
- 1/1 山口源「がんたん」(沼津朝日1/1)
- 1/1 富永謙一郎「可睡斎とお正月」(静岡1/1)
- 1/1 小川龍彦「新春漫筆」(静岡1/1)
- 1/1 田中千恵子「彫塑にかける青春」(静岡1/1)
- 1/2 中村一仁油絵個展於沼津竹村(-7)。(静岡S49.12/30)
- 1/2 高柳千賀子新春展於清水戸田書店(-7)。(朝日静岡版S49.12/31, 静岡1/6)
- 1/2 印象派名作版画展於静岡西武(-8)。(静岡S49.12/31, S50.1/6, 朝日静岡版S49.12/31, 読壳静岡版1/5)
- 1/2 田能村直外朱竹画展示即壳会於静岡西武(-8), 於富士バビー(17-20)。(静岡1/1, 4, 16)
- 1/3 市川正三・細谷泰茲・末房貞樹:グループネオ第1回展於静岡ラ・フォリア(-31)。(静岡1/6, 11, 13, 朝日静岡版1/11)
- 1/3 安田醉竹朱竹画展示即壳会於浜松松菱(-6)。(静岡S49.12/31, S50.1/4, 朝日静岡版1/5)
- 1/ 斎藤清近作木版画展於静岡ピカソ(-10)。(朝日静岡版S49.12/31)
- 1/ 全日写静岡支部創立20周年記念展於静岡産業会館(-8)。(朝日静岡版1/5, 6)
- 1/ 南淳一《地上におり立ちたる者》設置於磐田ヤマハ発動機本社。(日経静岡版1/8)
- 1/5 川面義雄木版源氏物語絵巻展於静岡ギャラリー春
- 野(-19)。(静岡S49.12/30, S50.1/9)
- 1/5 河合寛次郎陶芸展於浜松市美術館(-26)。(静岡S49.12/30, S50.1/3, 6, 9, 14, 23, 朝日静岡版1/1, 読壳静岡版1/5, 朝日静岡版1/11)
- 1/6 「さーくる労美」(朝日遠州版1/6)
- 1/ ピュフェ《サーカス》展示於ピュフェ美術館。(沼津朝日1/7, 11 静岡1/17, 朝日伊豆岳南版1/18)
- 1/9 朝日陶芸展於浜松松菱(-13)。(朝日遠州版1/7, 10, 静岡1/11, 中日駿遠版1/12)
- 1/9 安田醉竹二代目襲名朱竹画展於静岡松坂屋(-14)。(静岡1/4, 8)
- 1/10 鈴木雁・鈴木公子二人展於掛川元れんか堂(-15)。(郷土1/11, 中日駿遠版1/12)
- 1/ 市野三接、天竜市立図書館へ書道書寄贈。(静岡1/13)
- 1/15 細井繁成・大石靖展於三島V8画廊(-22)。(中日静岡版1/13)
- 1/15 井上市三郎「中仙道の道」展於浜松松菱(-22)。(静岡1/16, 朝日遠州版1/18, 每日遠州版1/19)
- 1/15 滝平二郎さり絵展於浜松松菱(-21)。(静岡1/13, 18, 中日静岡版1/14, 19)
- 1/ 見城春男小品展於静岡ガスサロン(-20)。(静岡1/16)
- 1/16 熊切澄夫回顧展於清水戸田書店(-21)。(静岡1/18, 30, 朝日静岡版1/18, 每日中部版1/19)
- 1/ 奥田八重子喜寿展於静岡幸文堂(-21)。(静岡1/18)
- 1/ 山田朝春作陶展於静岡西武(-22)。(静岡1/16, 每日静岡版1/20)
- 1/ 江戸明治浮世絵展於富士市立吉永公民館(-19)。(静岡1/19)
- 1/17 山下清展於磐田商工会館(-19)。(読壳遠州版1/17, 中日駿遠版1/18, 朝日静岡, 遠州版1/18)
- 1/18 土門拳古寺巡礼展於新静岡センター(-31)。(静岡S49.12/13, 27, 31, S50.1/3, 17, 24, 朝日静岡版S49.12/31, 中日静岡版1/17, 19, 每日静岡版1/18, 読壳静岡版1/18, 每日中部版1/19)
- 1/ 山本翠城展於静岡松坂屋(-28)。(朝日静岡版1/25, 每日中部版1/26)
- 1/21 「小川龍彦 ちゃつきり放談」(中日駿遠版1/21)
- 1/21 青丹会第2回展於静岡ガスサロン(-26)。(中日静岡

- | | |
|--------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 版1/13, 静岡1/16, 23, 每日中部版1/16, 19, 朝日静岡版1/21) | 2/ 高柳忠・山田孝之展於静岡ガスサロン(-23)。(朝日静岡版2/19) |
| 1/ 鍋田文子展於清水戸田書店(-28)。(朝日静岡版1/25) | 2/20 市川正三・絹谷幸二・谷本重義三人展於東京紀伊国屋画廊(-25)。(毎日中部版2/13, 静岡2/22) |
| 1/ 浜征彦油絵展於浜松松菱(-2/3)。(静岡1/23) | 2/24 山口源個展於東京養清堂画廊(-3/1)。 |
| 1/24 斎藤清新作木版画展於静岡ピカソ(-)。(毎日中部版1/16) | 2/25 五人展於静岡ガスサロン(-3/2)。(読壳静岡版2/15, 静岡2/17, 20, 27) |
| 1/30 内田邦夫・大橋豊久・金田紅鯨工芸三人展於静岡吉備(-2/9)。(静岡1/30, 2/6) | 2/ アトリエC-126版画展於浜松ナカムラ画廊(-3/1)。(朝日遠州版3/1) |
| 1/ 高柳千賀子展於浜松西武(-2/5)。(朝日遠州版2/1) | 2/27 静岡木漆伝統工芸第1回展於静岡松坂屋(-3/4)。(毎日東, 中部, 遠州版2/28, 静岡H22.4/26) |
| 2/1 藤田嗣治秀作版画展於沼津ギャラリータケイ(-8)。(沼津朝日1/30, 静岡1/30) | 3/1 小杉修史二十六展於静岡産業会館(-3)。(静岡2/20, 27, 每日中部版2/27) |
| 2/4 末沢誠子・林婦美子二人展於静岡ガスサロン(-9)。(静岡1/30, 2/6, 朝日静岡版2/1, 読壳静岡版2/1, 每日中部版2/6) | 3/1 県アンデパンダン展於静岡産業会館(-3)。(毎日東, 中部, 遠州版3/2, 清美協no.130) |
| 2/ 竹内重行展於浜松三菱信託銀行浜松支店(-28)。(静岡2/6, 朝日遠州版2/12, 中日静岡版2/17) | 3/1 黄檗資料展於浜松市美術館(-27)。(静岡2/24, 3/6, 読壳遠州版3/4) |
| 2/6 山下博・山下誠弥・岩倉富栄・岩倉みつる四人展於沼津ギャラリーはさか(-11)。(静岡2/6, 朝日伊豆岳南版2/8, 每日東部版2/9) | 3/ 鷺坂せつ子小品展於焼津ブービイ(-31)。(静岡3/3) |
| 2/6 青松会日本画展於浜松松菱(-11)。(静岡2/6, 朝日遠州版2/8, 每日遠州版2/9) | 3/6 日展特選作家洋画展於静岡松坂屋(-11)。(静岡3/3, 每日中部版3/6, 9) |
| 2/ 斎藤三郎リトグラフ展於沼津西武(-12)。(静岡2/6) | 3/ 浅井一介個展於浜松元城アートギャラリー(-18)。(静岡3/6, 8, 朝日遠州版3/8, 每日西部版3/9) |
| 2/10 島崎保正展於富士文化センター(-11)。(静岡2/5) | 3/ 久保明子展於静岡扇子屋(-15)。(朝日静岡版3/8, 読壳静岡版3/15) |
| 2/ 愛宕下三枝美術館近況。(静岡2/11) | 3/ 新槐樹社第19回展於東京都美術館(-16)。入選者発表。(静岡3/8) |
| 2/11 遠州美術会第18回展於浜松市美術館(-16)。(静岡2/6, 13, 読壳静岡版2/11, 朝日遠州版2/12) | 3/11 グループA&A展於静岡ガスサロン(-16)。(静岡3/3, 6, 每日中部版3/6, 朝日静岡版3/11, 読壳静岡版3/15) |
| 2/11 鈴木隆行展於浜松市美術館(-16)。(静岡2/6) | 3/13 行動美術新人選抜展於東京紀伊国屋画廊(-18)。大庭祐輔出品。 |
| 2/12 平井俊男個展於静岡ガスサロン(-17)。(朝日静岡版2/10, 静岡2/13, 每日中部版2/13, 読壳静岡版2/15) | 3/13 植田省三展於沼津ギャラリーはさか(-18)。(中日静岡版3/10) |
| 2/ 橋本昌己展於沼津中央信託銀行沼津支店(-22)。(沼津朝日2/13, 静岡2/13, 中日静岡版2/17) | 3/13 高野良之助展於沼津竹林(-17)。(静岡3/6) |
| 2/ 丸茂慎一写真展於静岡三菱信託銀行静岡支店(-28), 於同浜松支店(-3/31)。(静岡2/13, 20, 3/6, 読壳静岡版2/15) | 3/13 坂口一草日本画展於静岡松坂屋(-18)。(静岡3/12) |
| 2/13 山田茂人展静岡松坂屋(-18)。(静岡2/12, 朝日静岡版2/15, 読壳静岡版2/15, 每日中部版2/16) | 3/13 野中弘士ヨーロッパ紀行展於浜松松菱(-18)。(朝日遠州版3/11, 15, 静岡3/13, 15, 中日静岡版3/17) |
| 2/14 山下都美展於県庁西館展示室(-23)。(静岡2/13, 20) | 3/ 高柳千賀子個展於静岡三菱信託銀行静岡支店(-31)。(静岡3/13, 20, 読壳静岡版3/15) |
| 2/ 矢野鉄山展於静岡永田画廊(-24)。(毎日中部版2/23) | 3/14 二科五人展於浜松西武(-19)。(静岡3/13, 每日西部版3/16) |

3/17	北川民次水彩・水墨・版画展於東京日動サロン(-24)。	4/ 4	岡野光夫・杉村孝・はなの憲嗣三人展於県庁西館展示室(-10)。(静岡4/3)
3/18	第27回三軌会展於東京都美術館(-31)。 入選発表。(静岡3/24)	4/ 4	中尾淳展於浜松西武(-9)。(朝日遠州版4/1, 静岡4/3)
3/18	岡本透水彩画展於静岡ガスサロン(-24)。 (静岡3/13, 20, 朝日静岡版3/15)	4/ 6	脇田和リトグラフ展於静岡ラ・フォリア(-30)。(静岡4/3, 10, 12, 朝日静岡版4/5, 毎日中部版4/10, 読売静岡版4/19)
3/	原崎富士雄展於静岡電電ビル(-24)。(静岡3/20)	4/ 6	二紀会第28回展於浜松市美術館(-13)。(静岡4/3)
3/	エングフラウ近況。(朝日静岡, 遠州版3/20)	4/	《久保田隆作胸像》建立於清水町柿田川橋。(静岡4/7)
3/20	前田守一個展於東京京二画廊(-29)。(静岡3/24)	4/	《大村西崖胸像》再建立於富士川町役場前。(静岡4/7)
3/20	成川勝己墨画展於沼津ギャラリーほさか(-26)。 (静岡3/20, 每日東部版3/23)	4/ 7	「松島達太郎 この人」(静岡4/7)
3/20	ピカソ版画秀作展於静岡ギャラリー春野(-23)。 (朝日静岡版3/18, 静岡3/20, 每日中部版3/23)	4/	大橋由利子展於浜松第一勧業銀行浜松支店(-12)。(朝日遠州版4/9)
3/20	川端政雄個展於静岡小谷画荘(-25)。 (静岡3/20, 清美協no.130)	4/10	中川雄太郎逝去。65歳。(静岡4/10, 12, 日本美術年鑑S.51)
3/20	竹久夢二・宮本三郎美人版画展於浜松松菱(-25)。 (朝日遠州版3/17, 静岡3/20)	4/10	白日会静岡支部第5回展於県庁西館展示室(-13)。(静岡4/3, 10)
3/	ベルエポックファンション版画展於浜松西武(-26)。 (朝日遠州版3/20, 每日西部版3/23)	4/10	水彩連盟静岡支部展於県庁西館展示室(-13)。(静岡4/10, 13)
3/22	佐々木松次郎遺作展於浜松市美術館(-4/3)。(中日静岡版3/17, 静岡3/20, 23, 24, 27, 読売遠州版3/22, 每日西部版3/27)	4/10	緑栄会展於静岡松坂屋(-15)。(朝日静岡版4/9, 每日中部版4/10)
3/25	太田京子展於東京中央公論画廊(-)。 (朝日静岡版3/26)	4/	高橋雲亭南画展於駿府博物館(-5/5)。(静岡4/13)
3/	富安風生・瀬戸内美術館賛展於静岡松坂屋(-31)。 (静岡3/29)	4/13	第5回日影展於東京都美術館(-5/3)。 浅井行雄《立像》澤田政廣《観音》杉本宗一《子供》 堤達男《常住の生命》堤直美《丘II》平馬学《土筆》 平野敬吉《木曾駒第三春山号》松田裕康《めばえ》 山本利治《生》和田金剛《隅田川》
3/27	広瀬功展於浜松松菱(-4/1)。(静岡3/27)	4/15	リトグラフグループ「試運転」展於静岡ガスサロン(-20)。(静岡4/10, 17, 每日中部版4/10)
3/27	藤原衛小品個展於静岡静岡幸文堂(-4/1)。 (静岡3/27, 每日中部版3/27)	4/15	パンフォーカス浜松写真第1回展於浜松市美術館(-20)。(静岡4/10, 読売遠州版4/22)
3/28	遠藤君雄「働く人の美術展」(沼津朝日3/28)	4/	浜松市美術館近況。(静岡4/15)
4/ 1	第30回春季院展於東京三越(-5)。 入選者。(静岡3/29)	4/17	白日会東部展於沼津ギャラリーほさか(-24)。 (静岡4/18, 朝日伊豆岳南版4/20)
4/ 1	郷土ゆかりの絵と書遺作名品展於静岡松坂屋(-8)。(毎日中, 西部版4/1, 静岡4/2)	4/17	繁田博個展於静岡幸文堂(-22)。(朝日静岡版4/16, 朝日静岡版4/20, 静岡4/21)
4/	鈴木満・中村直人二人展於東京上野松坂屋(-)。	4/17	袴田省三新作油絵展於静岡松坂屋(-22)。 (朝日静岡版4/17, 静岡4/21)
4/	竹内重行展於静岡三菱信託銀行静岡支店(-30)。 (毎日中部版4/17, 読売静岡版4/19)	4/17	恩田秋夫木版画展於浜松松菱(-20)。
4/ 3	加藤三郎・杉山晃・志賀旦山展於沼津ギャラリーほさか(-8)。(沼津朝日4/3, 静岡4/3)		
4/	ピカソ・ドランのデッサン展於静岡ギャラリー春野(-8)。(静岡4/3, 朝日静岡版4/5)		

- | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (朝日遠州版4/16, 静岡4/17) | 4/30 池田二十世紀美術館開館。5/1一般公開。
(静岡4/14, 5/1, 6/7, 美術手帖6月号) |
| 4/18 美学校中村宏・立石鐵臣工房展於東京シミズ画廊
(-23)。 | 5/ 1 第43回日本版画協会展於東京都美術館(-19)。 |
| 4/19 池田正司「水彩画へのいざない」(静岡4/19) | 5/ 1 平馬学, 平松哲司, 県文化奨励賞受賞。(静岡4/26, |
| 4/ 細谷泰茲《満蒙開拓義勇軍拓魂碑》除幕式於静岡
護国神社。(静岡S49.10/11, S50.4/21, S55.6/1, 中日
静岡版4/13) | 朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版4/26, 中日遠州版4/27,
読壳静岡版5/3) |
| 4/22 第49回国画会展於東京都美術館(-5/8)。
伊藤勉《実のある話》《花咲ふ》栗山茂《わが国土-
出雲神話A》《同B》山口源《午後のすさび》長谷川
安信《顔A》《顔B》 | 5/ 1 横井たすく詩画展於沼津ギャラリーほさか(-6)。
(沼津朝日4/28) |
| 4/22 第52回春陽会展於東京都美術館(-5/8)。
小栗哲郎《七夕豪雨痕(1)》《同(2)》 | 5/ 静岡市文化財資料館開館。(静岡S48.10/9, S50.
4/12, 中日駿遠版3/14, 読壳静岡版5/3, 朝日静岡版
5/5, 每日東, 中部, 遠州版5/29) |
| 4/22 燃津美術協会小品展於静岡ガスサロン(-5/4)。
(朝日静岡版4/22, 静岡4/24, 5/1) | 5/ 1 鈴木満・中村直人二人展於静岡松坂屋(-6)。
(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版5/1) |
| 4/ 重岡建治彫刻展於伊東觀光会館(-27), 静岡ガスサ
ロン(5/6-11)。(読壳静岡版4/24, 5/10, 静岡5/3, 8,
朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版5/10, 每日東, 中部, 遠
州版5/11) | 5/ 1 画廊フジ、オープン。(沼津毎日5/10, 沼津朝日6/1) |
| 4/23 松島達太郎画業50年回顧展於浜松市美術館(-27)。
(静岡4/7, 読壳遠州版4/19, 中日遠州版4/22, 朝
日遠州版4/24) | 5/ 1 山田安展於静岡ラ・フォリア(-31)。(朝日静岡版5/3,
読壳静岡版5/10, 每日中部版5/11) |
| 4/ 秋山浩薰作品展於静岡天昌寺(-27)。於大阪(5/2-)。
(静岡4/23) | 5/2 吉野不二太郎個展於静岡産業会館(-7)。(毎日静岡
版4/29, 静岡5/1, 3, 朝日静岡版5/3) |
| 4/24 中野清光スケッチ展於沼津ギャラリーほさか(-29)。
(静岡4/17, 24, 朝日伊豆岳南版4/26) | 5/ 3 豊島廉個展於御殿場農協会館(-5)。(静岡5/1) |
| 4/24 丸山力三展於清水戸田書店(-29)。
(朝日伊豆岳南, 静岡版4/23) | 5/ 5 下田舜堂「まどべ」(静岡5/5, 12, 19, 26, 6/2, 9, 16, 23,
30, 7/7, 14, 21, 28) |
| 4/24 ピカソ版画展於静岡ギャラリー春野(-5/6)。
(静岡4/24, 5/1, 每日中部版4/24) | 5/ 1 山本真砂個展於浜松市美術館(-11)。(静岡5/8) |
| 4/24 三沢佐助遺作展於静岡谷島屋書店(-29)。
(静岡4/17, 24, 26) | 5/ 1 中村陶吉展於静岡松坂屋(-13)。(毎日中部版5/8) |
| 4/24 江谷慎一郎やきもの展於浜松松菱(-29)。
(朝日遠州版4/22) | 5/10 第11回現代日本美術展於東京都美術館(-30)。
鈴木久雄、出品。 |
| 4/25 松林トミ夫展於静岡フィニー(-5/18)。(静岡5/12) | 5/10 佐藤徹個展於静岡扇子屋(-20)。
(静岡5/12, 読壳静岡版5/17, 県油協no.15) |
| 4/ 岩田たけお不夜城展於沼津西武(-30)。
(静岡4/24, 每日東部版4/27) | 5/13 田端勝清日本画展於静岡ガスサロン(-18)。(読壳静
岡版5/10, 朝日静岡版5/13, 静岡5/15, 17, 每日中部
版5/18) |
| 4/26 青木幽溪・松下滄州・永倉洗石三人展於県庁西館
展示室(-29)。(静岡4/24) | 5/13 中道芳美展於浜松遠鉄(-19)。
(中日駿遠版5/8, 静岡5/20) |
| 4/29 中部一陽会展於浜松市美術館(-5/4)。
(静岡4/24, 30, 5/1, 3) | 5/ 1 井上長三郎展於沼津ギャラリーほさか(-20)。
(朝日伊豆岳南版5/12) |
| | 5/14 一枚の絵洋画市於駿府博物館(-19)、浜松遠鉄
(22-26), 富士バビー(28-6/3)。府川貢《ガズニーの
辻馬車》静岡市へ寄贈。(静岡5/15*, 16, 21, 27) |
| | 5/ 1 大橋豊久個展於清水戸田書店(-20)。(静岡5/18,
朝日静岡版5/19) |
| | 5/ 1 佐藤徹油絵個展於静岡幸文堂(-20)。(静岡5/12) |
| | 5/15 旦山会日本画小品展於沼津ギャラリーほさか |

	(-20)。(沼津朝日5/11, 静岡5/15, 読壳静岡版5/17)		5/31)
5/16	岩田博全展於伊東觀光会館(-18)。 (朝日伊豆岳南版5/15)	5/	上村敦之日本画展於沼津西武(-6/4)。 (中日静岡版5/26)
5/16	志賀旦山「静流会記念展」(沼津朝日5/16)	5/	今井俊満展於新静岡センター(-6/3)。(静岡6/2)
5/16	静流会30周年記念展於沼津西武(-21)。(沼津朝日5/14, 16, 6/3, 朝日伊豆岳南版 5/17)	5/31	大村政夫《生駒藤之胸像》除幕式於富士吉永第一小学校。(静岡5/13)
5/16	伊藤靖夫個展於浜松元城アートギャラリー(-25)。 (中日駿遠版5/16, 19, 静岡5/22, 朝日遠州版5/24)	6/ 1	第2回箱根彫刻の森大賞展(~11/30)。 鈴木久雄、掛井五郎出品。
5/17	「あの人この人」連載。中野謙二、大村政夫、池田正司、増田猪富、古田晴久、志賀旦山、海野幸正、堤達男、志賀丹丘、鈴木未央、篠田幸夫。(読壳静岡版5/17, 24, 6/14, 8/23, 30, 9/6, 27, 10/4, 11/22, 12/6, 20)	6/ 1	県書道連盟第20回展於県庁西館展示室(-8)、於富士吉原市民会館(-20)。(静岡5/29, 6/2)
5/17	担庵展於佐野美術館(-6/21)。 (静岡5/12, 朝日伊豆岳南版5/19)	6/	勝山陽子展於静岡ラ・フォリア(-30)。(朝日静岡版6/7, 読壳静岡版6/14)
5/20	井口通太郎個展於浜松市美術館(-25)。(静岡5/15, 22, 読壳静岡版5/17, 中日静岡版5/19)	6/	岡崎平一木版画小品展於焼津ブービイ(-30)。 (静岡6/23, 朝日静岡版6/28)
5/21	服部一秀・池ヶ谷黙堂展於熱海觀光会館(-22)。 (朝日伊豆岳南版5/21, 毎日東部版5/22)	6/ 3	遠藤ちえ「静流会の思い出」(沼津朝日6/3)
5/	三枝泰造展於静岡産業会館(-26)。(静岡5/26)	6/ 4	壮炎会第30回展於浜松市美術館(-8)。 (中日遠州版6/5, 静岡6/6)
5/22	ピカソ版画展於静岡ギャラリー春野(-6/3)。 (毎日中部版5/15, 静岡5/29, 朝日静岡版5/31)	6/ 5	池田正司個展於清水戸田書店(-14)。(毎日中部版6/1, 朝日伊豆岳南版6/3, 読壳静岡版6/7, 静岡6/7)
5/22	関野準一郎版画展於浜松松菱(-27)。 (朝日遠州版5/19, 静岡5/22)	6/ 5	北川忠一郎展於浜松松菱(-10)。(朝日遠州版6/5)
5/23	鈴木貞夫展於静岡西武(-28)。(静岡5/22, 朝日静岡, 遠州版5/24, 中日駿遠版5/25)	6/ 6	風土展於沼津ギャラリーほさか(-10)。(静岡5/29, 6/5, 沼津毎日5/30 読壳静岡版5/31, 沼津朝日6/4)
5/23	月岡貞夫展於静岡明治生命ホール。 (静岡5/17, 中日静岡版5/19)	6/ 8	鈴木満逝去。62歳。(美術年鑑S.51, 静岡6/9)
5/	グループネオ作品展於静岡三菱信託銀行静岡支店(-6/14)。(毎日中部版5/29, 6/8)	6/13	下田梯三郎個展於沼津西武(-25)。(静岡6/12, 19)
5/29	松田裕康彫刻展於沼津ギャラリーほさか(-6/3)。 (静岡5/29, 朝日伊豆岳南版5/31, 每日東部版6/1)	6/13	武者小路実篤作品展於静岡西武(-25)。(朝日静岡版6/11, 每日中部版6/12)
5/29	青銅四人展於静岡松坂屋(-6/3)。八木洋行、小川国夫、江崎武男、杉村孝。(静岡5/22, 29, 31, 6/9)	6/13	太田吉比古個展於浜松市美術館(-15)。(静岡6/12)
5/29	松風会日本画展於浜松松菱(-6/2)。(静岡5/29, 朝日遠州版5/31)	6/	萩萩月展於三島ギャラリープラザ(-)。(静岡6/16)
5/	高見沢東海道五十三次木版画展於静岡松坂屋(-6/3)。(静岡5/29)	6/	伊藤孝之展於清水戸田書店(-17)。(静岡6/14)
5/	長谷川栄一水彩画展於静岡幸文堂(-6/3)。(静岡5/29, 朝日静岡版5/31, 読壳静岡版5/31)	6/	平井俊男色紙スケッチ展於清水東京銀行清水支店(-30)。(静岡6/14)
5/30	鈴木佑治展於静岡谷島屋書店(-6/3)。(静岡5/22, 29, 中日静岡版5/26, 每日中部版5/29, 朝日静岡版	6/14	渡辺英子「父・古桜の画日記」(沼津朝日6/14, 11/7)
		6/16	北川民次“人と芸術”版画展於東京ギャラリー・ヴォザール(-21)。
		6/19	裕会洋画展於静岡松坂屋(-24)。(読壳静岡版6/14, 朝日静岡版6/18)
		6/19	マチス リトグラフ展於静岡ギャラリー春野(-7/15)。 (毎日中部版5/29, 6/19, 朝日静岡版6/19)
		6/19	川端政雄個展於静岡幸文堂(-24), 於清水山茶郷(7/1-31)。(清美協no.134)
		6/19	富田三郎木版画展於浜松松菱(-24)。(朝日遠州版

- | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6/17, 遠州版6/18, 静岡6/19) | (静岡7/3, 10, 朝日遠州版7/5,) |
| 6/20 「松本長三郎 この人」(静岡6/20) | 7/ 高柳千賀子個展於静岡扇子屋(-15)。 |
| 6/20 上村淳之展於浜松西武(-25)。
(静岡6/19, 朝日遠州版6/21) | (静岡7/7, 14, 毎日中部版7/10) |
| 6/21 安倍修三郎個展於沼津天心画廊(-24)。(静岡6/19,
沼津朝日6/20, 朝日伊豆岳南版6/21, 每日東部版
6/22) | 7/ 6 平井顕斎展於吉田町中央公民館。(静岡7/7) |
| 6/ 福地啓治展於浜松浜松画廊(-30)。
(静岡6/26, 朝日遠州版6/28) | 7/ 一陽会遠州グループ第3回展於浜松元城アート
ギャラリー(-13)。(静岡7/10) |
| 6/26 若林淳之「神仏分離運動と文化財」(静岡6/26) | 7/10 県油彩美術家協会第3回展於県庁西館展示室
(-13)。(静岡6/30, 7/3, 7, 10, 朝日伊豆岳南, 静岡, 遠
州版7/8) |
| 6/26 曽根浩二展於静岡谷島屋書店(-7/1)。(静岡6/23,
中日静岡版6/27, 朝日静岡版6/28, 読売静岡版
6/28) | 7/10 青木草風歌舞伎絵展於静岡谷島屋(-15)。(読売静
岡版7/5, 毎日中部版7/10, 朝日静岡版7/12) |
| 6/26 松美会展於浜松松菱(-7/1)。
(朝日遠州版6/23, 静岡6/26) | 7/ 小谷津雅美・河本正展於静岡松坂屋(-15)。
(朝日静岡版7/12) |
| 6/27 シリアスフォト4人展於浜松市美術館(-7/6)。
(朝日遠州版6/24, 静岡6/27) | 7/11 小林清親名作展於新静岡センター(-16)。
(静岡7/8, 12, 毎日中部版7/13) |
| 6/ 内山恒雄近況。(静岡6/30) | 7/12 松尾敏男展於静岡永田画廊(-20)。(静岡7/10, 17,
読売静岡版7/12, 毎日中部版7/17, 朝日静岡版7/17) |
| 6/ 杉村孝近況。(朝日静岡版7/1) | 7/14 青木洋子個展於東京ミヤマ画廊(-19)。 |
| 7/1 本多克枝欧州スケッチ展於静岡ガスサロン(-6)。
(毎日中部版6/22, 静岡6/26, 読売静岡版6/28, 朝
日静岡版7/1, 清美協no.134) | 7/15 前島秀章・前島範久木彌二人展於静岡ガスサロン
(-20)。(読売静岡版7/12, 朝日静岡版7/15, 静岡
7/17, 24, 毎日中部版7/17, 28) |
| 7/ 赤堀尚展於東京三越(-6)。(沼津朝日7/3) | 7/15 饗場二郎・泉沢守・大河原久夫・鈴木はぎ乃四人展
於浜松市美術館(-20)。(静岡7/10, 17) |
| 7/ 鈴木一雄展於伊東この花会館(-6)。(朝日伊豆岳
南版7/5, 毎日東部版7/6) | 7/15 天竜彫刻の村オープン於天竜旧横川小学校
(-8/28)。(中日静岡版7/7, 静岡7/10, 16, 8/23, 読売
遠州版10/10) |
| 7/ 森正一展於静岡ラ・フォリア(-31)。
(朝日静岡版7/5, 読売静岡版7/5) | 7/ 清川泰次、紺綬褒賞受賞。(静岡7/16) |
| 7/2 青木洋子、日本現代画家40人展於フランスアンド
レ・エール画廊出品。(沼津朝日7/12) | 7/ 一枚の絵洋画展於天竜農業センター(-20), 於焼津
市民センター(21-23), 於御殿場農協新橋支所
(26-27)。(静岡7/13, 19, 20, 22, 26) |
| 7/2 県二科第2回展於県庁西館展示室(-6)。(静岡7/2) | 天竜市へ南部陽一郎《雲上聖岳》寄贈。(静岡7/19) |
| 7/3 近代日本画巨匠風景画名品展於駿府博物館(-27)。
(静岡6/26, 7/3, 10, 17, 24) | 7/17 影山治三油絵個展於静岡幸文堂(-22)。(県油協
no.17) |
| 7/3 豊泉隆吉展於静岡幸文堂(-8)。
(静岡7/3, 7, 毎日中部版7/3) | 7/17 小林洋子展於静岡谷島屋書店(-22)。
(読売静岡版7/12, 毎日中部版7/17) |
| 7/3 県造形協会 ポイント・アート・ナンセンス展於浜松市
美術館(-13)。石子順造講演会於浜松市美術館
(7/13)。(静岡7/3, 10, 朝日駿豆, 静岡, 遠州版7/8,
清美協no.134) | 7/22 創型会第3回展於静岡ガスサロン(-8/3)。(毎日東,
中部, 遠州版7/17, 静岡7/17, 24, 読売静岡版7/19) |
| 7/ 土竜会展於静岡松坂屋(-8)。(朝日静岡版7/5, 每日
中部版7/6) | 7/ 伊藤勉黄展於静岡永田画廊(-29)。
(朝日静岡, 遠州版7/27, 静岡7/28) |
| 7/ 三橋兄弟治・柴田祐作展於浜松松菱(-15)。 | 7/24 県美術家連盟第12回展於県庁西館展示室(-27)。
(読売静岡版7/5, 朝日静岡, 遠州版7/27, 県美連会 |

報no.14)	(朝日静岡版8/23)
7/24 本多克枝展於清水戸田書店(-29)。(静岡7/22)	8/22 山下清秀作展於富士バビー(-30)。(静岡8/18)
7/24 藤野嘉市個展於静岡幸文堂(-29)。 (読壳静岡版7/19, 県油協no.15, 17)	8/23 新谷琇紀彫刻展於静岡永田画廊(-9/7)。(毎日中部版8/21, 読壳静岡版8/23, 30, 9/6, 静岡8/30, 朝日静岡版8/30, 9/6)
7/25 「高倉清雄 この人」(静岡7/25)	8/28 県水彩画協会第25回展於静岡産業会館(-31)。(静岡8/21, 28, 30, 9/1, 読壳静岡版8/23, 30, 朝日静岡, 遠州版8/28, 読壳静岡版8/30)
7/26 創元会第34回展於浜松市美術館(-8/3)。 (静岡7/24, 31, 朝日遠州版7/27)	8/28 旦山会日本画展於沼津ギャラリーほさか(-9/2)。 (沼津毎日8/19, 静岡8/21, 28, 9/1, 読壳静岡版8/23, 沼津朝日8/24, 每日東部版8/31)
7/ 鈴木貞夫サムホール展於浜松市美術館(-8/3)。 (静岡7/31, 朝日遠州版8/2)	8/28 赤堀正巳個展於静岡幸文堂(-9/2)。 (静岡8/28, 朝日静岡版8/30)
7/29 魯迅と中国版画展於富士美術館(-9/25)。 (毎日東, 中部, 遠州版7/25, 8/1, 静岡7/31)	8/31 県文化奨励賞受賞者作品展於県庁西館展示室(-7)。 (静岡9/1, 4, 每日東, 中部, 遠州版9/1, 静岡9/4)
7/30 県版画協会第40回展於県庁西館展示室(-8/3)。 (静岡7/28, 31, 読壳静岡版8/2)	8/31 井田恵子遺作展於県庁西館展示室(-9/3)。 (静岡8/28, 9/4, 每日中部版9/1, 8)
7/ 丹羽勝次個展於静岡谷島屋書店(-8/5)。 (静岡8/2, 朝日静岡版8/3)	9/ 1 文化奨励賞受賞者作品等展示会於県庁西館展示室(-7)。(読壳静岡, 遠州版8/28)
8/ 内山牛松展於浜松三菱信託銀行浜松支店(-9)。 (静岡8/1)	9/ 佐藤幸敏陶芸展於焼津カフェテラスかもめ館(-30)。 (静岡9/1)
8/ 1 杉山青樹路展於静岡扇子屋(-15)。(毎日中部版7/31, 朝日静岡版8/2)	9/ 2 第60回二科展於東京都美術館(-20)。 北川民次《茶畑》
8/ 1 清水光男個展於焼津ブービイ(-31)。(静岡8/2, 9/1)	新入選者。(読壳静岡版8/29, 朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版8/30, 静岡9/1, S51.8/16)
8/ 2 ピカソ版画展於静岡ギャラリー春野(-19, 21-9/2)。 (静岡7/31, 8/7, 21, 28, 每日中部版8/21, 朝日静岡, 遠州版8/2, 30)	9/ 2 第60回院展於東京都美術館(-20)。
8/ 青島秋果賤機焼展於沼津富士急(-14)。(沼津朝日8/6)	山本八千代《シャム猫》入選。(静岡9/5)
8/ 大和松緑個展於沼津ギャラリーほさか(-17)。 (朝日伊豆岳南版8/2, 静岡8/7)	9/ 原田政太郎個展於静岡扇子屋(-7)。(朝日静岡版8/23, 読壳静岡版8/30, 31, 静岡9/1)
8/ 4 ジョルジョ・ルオー《ミゼレーレ》展於沼津ギャラリータケイ(-17)。(沼津朝日8/3, 静岡8/7, 14)	9/ アート・ヴァージン第2回展於県庁西館展示室(-7)。 (毎日中部版9/1, 静岡9/4)
8/ 5 池田正司「窓辺」(静岡8/5, 11, 19, 26, 9/2, 9, 16, 23, 30, 10/7, 14, 21, 28)	9/ 郷土の偉人墨蹟展於駿府博物館(-28)。 (静岡9/4, 11, 18, 25)
8/ 鈴木照之個展於浜松市美術館(-10)。 (読壳遠州版8/2, 静岡8/7)	9/ 3 県日本画協会第2回展富士吉原市民会館(-6)。 (静岡9/1)
8/12 江代唯吉油絵個展於静岡ガスサロン(-17)。 (読壳静岡版8/2, 静岡8/7)	9/ 4 旦山会展於沼津ギャラリーほさか(-9)。 (静岡8/28, 8/30, 読壳静岡版8/30)
8/18 静岡マンガプロの漫画展於静岡ガスサロン(-24)。 (毎日中部版8/7, 静岡8/14, 21, 朝日静岡版8/16)	9/ 6 鈴木康雄展於春野町総合センター(-12)。(静岡9/6)
8/ 市野三接書展於浜北グリーン会館(-24)。(静岡8/21)	9/ 7 斎藤清木版画展於浜松ナカムラ画廊(-13)。(読壳静岡版9/6, 朝日遠州版9/6)
8/21 梅島堅一写真展於富士吉原公民館(-23)。 (読壳静岡版8/2, 朝日静岡版8/21)	9/ 县善三郎、アートサロン開設。(中日駿遠版9/7, 静岡
8/ 原田政太郎近作展於静岡扇子屋(-31)。	

- 9/8, 朝日遠州版9/8)
 9/8 「県善三郎 この人」(静岡9/8)
 9/9 院展60年の歩み於東京日本橋三越(-14)。
 中島多茂都《滸》
 9/9 新槐樹社県支部展於県庁西館展示室(-12)。
 (静岡9/4, 朝日静岡版9/9)
 9/ 八木潮孝、半田常楽寺祖靈殿天井画制作。
 (毎日静岡版9/11)
 9/10 炎ゆたか展於浜松遠鉄(-15)。(静岡9/4, 11, 中日駿
 遠版9/11, 朝日遠州版9/13)
 9/11 斎藤真一展於東京上野松坂屋(-24)。(東京9/19)
 9/11 藤崎昭小品展於清水戸田書店(-16)。
 (朝日静岡版9/10, 静岡9/13)
 9/11 求正美展於浜松松菱(-16)。(中日駿遠版9/10, 朝日
 遠州版9/10, 静岡9/11, 読壳遠州版9/13)
 9/ 朱蓉会第4回展於静岡谷島屋(-16)。
 (毎日中部版9/11, 朝日静岡版9/13)
 9/ 柴田俊個展於静岡幸文堂(-16)。(静岡9/13)
 9/12 猛黙庵子作品展於東京東急本店(-17)。
 9/12 西村計雄展於静岡グランドホテル中島屋(-14)。
 (静岡9/8, 13)
 9/12 藤田嗣治展於静岡西武(-17)。(毎日中部版9/7, 朝日
 静岡版9/13)
 9/12 山下清作品展於掛川ジャスコ(-15)。
 (静岡9/13, 読壳遠州版9/16, 郷土9/20)
 9/13 二科賞受賞作家特撰展於静岡田中屋伊勢丹(-18)。
 (静岡9/12, 16, 読壳静岡版9/13)
 9/ 井出芳志《鈴木俊陽像》サンフランシスコにて制作。
 (静岡9/17)
 9/15 ビュフェ彫刻《蝶》《くわがた虫》除幕式於ビュフェ美
 術館。(沼津朝日9/12, 14, 朝日静岡版9/13, 静岡
 9/16, 每日東部版9/16, 読壳静岡版9/16)
 9/16 沢村美佐子個展於東京資生堂ギャラリー(-20)。
 (東京9/19)
 9/16 増田大豎水墨扇面展於静岡ガスサロン(-21)。
 (朝日静岡版9/16, 静岡9/20)
 9/17 竹久夢二滯歐素描展於浜松市美術館(-28)。(静岡
 9/6, 11, 18, 25, 読壳静岡版9/6, 中日駿遠版9/7, 10,
 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 26, 27, 28, 朝日伊豆岳南,
 静岡, 遠州版9/16 每日東, 中部, 遠州版9/17)
 9/18 前田暉・本多茂展於浜松松菱(-23)。(朝日遠州版
 9/17, 静岡9/18, 朝日遠州版9/20, 読壳静岡版9/20)
 9/19 県工芸家協会第1回展於静岡市産業会館(-21)。
 (読壳静岡, 遠州版8/25, 9/20, 中日駿遠版9/14, 每
 日東, 中部, 遠州版9/17, 静岡9/18)
 9/ 江崎敏夫近況。(朝日静岡版9/20)
 9/22 石原光真・川端政雄二人展於清水西友ストア(-28)。
 (読壳静岡版9/27, 清美協no.137)
 9/23 日本水彩画会浜松支部第1回展於浜松市美術館
 (-28)。(静岡9/18, 読壳静岡版9/20, 27, 每日遠州版
 9/21, 朝日遠州9/22)
 9/24 「三輪雅章 この人」(静岡9/24)
 9/ 桑原実油絵展於静岡三菱信託銀行静岡支店(-30)。
 (静岡9/25)
 9/27 島田市美術協会第1回展於島田すばる(-10/4)。
 10/1 県芸術祭第15回於県庁西館展示室(1-5, 22-26,
 11/12-16)。審査員: 戸田提山, 一木平蔵, 金丸重
 嶺, 澄川喜一, 山口源, 栗山茂, 伊藤勉, 青木滋芳, 田
 中青坪, 植村鷹千代, 渡辺武夫, 寺田政明。(読壳遠
 州版5/22, 10/25, 静岡版10/4, 25, 静岡9/25, 10/1,
 2, 25, 27, 11/5, 12, 每日東, 中部, 遠州版9/25, 10/25,
 10/25, 11/13, 朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版10/1, 22,
 11/12)
 10/1 第6回現代日本彫刻展於宇都市(-11/10)。
 鈴木久雄《P3816足のある風景》
 10/ レインボーアート第5回展於熱海市文化会館(-10/4)。
 (朝日伊豆岳南版10/4, 静岡10/6)
 10/ 土屋知明糊染展於沼津富士急(-14)。(沼津朝日
 10/3)
 10/ 東郷青児デッサン展於静岡西武(-8)。(静岡10/3)
 10/ 『ふるさと百話第15巻』刊行。(静岡10/7)
 10/ ダリ近作版画展於静岡ラ・フォリア(-31)。(読壳静岡
 版10/5, 静岡10/11, 朝日静岡版10/25)
 10/2 戸田三顯展於富士美術館(-11/25)。
 (読壳静岡版10/4, 14, 静岡10/23)
 10/2 小野由起子・酒井諒子・篠みさを展於静岡谷島屋
 (-7)。(毎日中部版10/2, 朝日静岡版10/4, 静岡10/6)
 10/6 中村宏展於東京ギャラリーヤエス(-18)。(毎日10/13)
 10/7 松野崇写真展於静岡ガスサロン(-12)。
 (静岡10/2, 9, 朝日静岡版10/8)
 10/7 花のある書画のある花展於県庁西館展示室(-)。
 (毎日中部版10/8, 朝日静岡版10/8)

- | | | |
|-------|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10/ 9 | 半田昌雄展於御殿場農協新橋支店(-12)。
(毎日東部版10/8) | (静岡10/23,朝日遠州版10/25) |
| 10/ 9 | 秋山二三九個展於静岡幸文堂(-14)。(静岡10/2) | 「山口源」(朝日伊豆岳南版10/24) |
| 10/ 9 | 月形那比古秀作展於静岡松坂屋(-14)。(静岡10/8,
11,毎日中部版10/10,朝日静岡版10/11,読売静岡
版10/11) | 細川秀年作陶展於静岡産業会館(-29)。(静岡10/23) |
| 10/ 9 | シャガール版画展於静岡ギャラリー春野(-21)。(静
岡10/9,朝日静岡版10/11,毎日中部版10/16) | 寺井祥一郎・塗師力三郎二人展於沼津西武(-30)。
(静岡10/23,30) |
| 10/10 | 西嶺会日本画展於沼津西武(-22)。(静岡10/2) | 関信一個展於静岡三菱信託銀行静岡支店(-11/15)。
(静岡10/25,朝日静岡版11/1) |
| 10/10 | 青木草風歌舞伎絵展於静岡扇子屋(-20)。(毎日中
部版10/1,10,16,静岡10/9,11,朝日静岡版10/11,18) | 山田辰之助展於静岡商工会館(-27)。(静岡10/11) |
| 10/12 | 第43回独立展於東京都美術館(-30)。
沢村美佐子《個人的な時間》 | 田畠武雄・鈴木利夫二人展於浜松元城アートギャ
ラリー(-11/26)。(静岡10/23,30) |
| 10/12 | 第29回二紀展於東京都美術館(-30)。
水野欣三郎《イカロスの墜落》 | 大町糺個展於東京資生堂ギャラリー(-11/1) |
| 10/12 | 大村政夫「わが青春」(静岡10/12,13,19,20,25,27,
11/2,3,8,9,15,17,22) | 後藤清吉郎ネパール旅行(-11/)。
(静岡10/19,12/1,朝日静岡版12/13) |
| 10/14 | 海野光弘版画展於静岡ガスサロン(-19)。(読売静
岡版10/7,静岡10/9,11,16,18,毎日中部版10/16) | 大村政夫、県教育委員会表彰。(静岡10/29,毎日東,
中部,遠州版10/29) |
| 10/14 | 平野富士雄滯歐写真展於浜松谷島屋書店(-19)。
(静岡10/9,13,毎日中部版10/16) | 写実派協会展於県庁西館展示室(-11/3)。
(毎日中部版11/1,朝日静岡版11/1) |
| 10/15 | 大谷久子滯歐作品展於浜松画廊(-23)。
(朝日遠州版10/15,静岡10/16) | 前島秀章・前島範久展於静岡和楽本店(-11/3)。
(毎日中部版11/1,朝日静岡版11/1) |
| 10/16 | 澤田政廣展於大阪なんば高島屋(-21)。 | 青木草風展於金谷中央公民館(-11/3)。
(毎日中部,遠州版11/2) |
| 10/16 | インカ文明とミイラ展於浜松松菱(-21)。
(読売静岡版10/14,15,16,17,静岡10/4) | 梶田守之翁陶芸展於浜松松菱(-11/4)。
(静岡10/30,朝日遠州版10/30) |
| 10/ | 秀麗会展於浜松松菱(-21)。(朝日遠州版10/18) | 杉井寛策近況。(毎日東,中部,遠州版11/1) |
| 10/ | 武笠誠小品展於静岡谷島屋(-21)。(朝日静岡版
10/18) | 11/ 1 東京展於東京都美術館(-20)。
鈴木慶則《複製の障子》長岡宏《MITSUI BILDING》 |
| 10/ | 人間国宝米洲人形展於静岡田中屋(-31)。
(朝日静岡版10/17) | 11/ 1 小塚天崖・大木晦二人展於沼津松蔭寺(-3)。
(沼津朝日10/31) |
| 10/19 | 《村松治平胸像》除幕式於清水市立老人福祉セン
ター。(読売静岡版10/16*,静岡10/20) | 11/ 1 会森利夫・大石和夫二人展於静岡扇子屋(-10)。
(静岡10/30,11/6,毎日中部版11/6) |
| 10/21 | グループA&A第3回作品展於静岡ガスサロン
(-26)。(読売静岡版10/11,静岡10/16,23,毎日中部
版10/23) | 11/ 1 安藤正義個展於水窪町生活改善センター(-3)。
(静岡10/22,11/3) |
| 10/21 | 米田一夫展於浜松谷島屋書店(-26)。(静岡10/16,
23) | 11/ / レオナール藤田展於沼津西武(-)。(静岡10/23) |
| 10/ | 宮下寿紀美人画展於沼津富士急(-28)。(静岡10/23,
朝日伊豆岳南版10/25,毎日東部版10/26) | 11/ 2 第7回日展於東京都美術館(-12/6)。
島戸繁《聖像》藤本東一良《あげ潮》浅井行雄《裸
婦立像》大村政夫《緑陰》下山昇《双笛》澤田政廣
《不動明王》杉本宗一《村長》堤達男《火口》堤直美
《放蕩》和田金剛《バンコクに誌う》
入選者。(毎日東,中部,遠州版10/28,静岡11/15) |
| 10/ | 宮下実個展於浜松松菱(-28)。 | 鳩巣会会員入選。(朝日伊豆岳南,静岡版10/14,
11/3,読売静岡版10/18,11/1) |

- 太田儀八《女》特撰。(静岡10/29,11/25)
- 11/ 3 志賀旦山「墨彩画集駿河を描く」
(沼津朝日9/4,11/20,21,23,日経静岡版9/10)
- 11/ 3 堤達男《矢崎貞美銅像》除幕式於沼津矢崎総業。
(沼津朝日11/2,静岡11/4)
- 11/ 3 清水真一、島田市名誉市民表彰。(静岡10/2)
- 11/ 4 県日本画作家小品展於静岡ガスサロン(-9)。(静岡
10/30,11/6,8,朝日静岡版11/6)
- 11/ 6 「牧田喜好 指定席」(静岡11/6)
- 11/ 6 佐野丹丘書作展於沼津富士急(-11)。(静岡11/6,
毎日東部版11/8,朝日伊豆岳南版11/9,沼津朝日
11/11)
- 11/ 6 静流会小品第30回展於沼津ギャラリーほさか
(-11)。(沼津朝日11/6,7)
- 11/ 塚田誠個展於静岡谷島屋書店(-11)。(静岡11/8)
- 11/ 中島清之・中島千波二人展於静岡永田画廊(-11)。
(静岡11/8,朝日静岡版11/8)
- 11/ 杉村勇展於静岡幸文堂(-11)。(朝日静岡版11/8,每
日中部版11/9)
- 11/ 7 三右衛門展於静岡西武(-12)。(静岡11/6,7)
- 11/ 8 寺平誠介「幻の風景あれこれ」(静岡11/8)
- 11/ 8 松涛塾社中第4回展於浜松市美術館(-13)。
(静岡11/6,読壳静岡版11/8)
- 11/10 佐々木古桜,第18回沼津朝日賞受賞。(沼津朝日
11/7)
- 11/10 成瀬憲個展於沼津ギャラリー・タケイ(-6)。(静岡
11/6,沼津朝日10/9,13,沼津毎日11/9,県油協no.20)
- 11/11 望月利八創作戯面展於静岡ガスサロン(-16)。(静
岡11/6,8,13,朝日静岡版11/9)
- 11/11 渡辺英一・山本真砂・小桜輝一三人展於浜松市美
術館(-16)。(読壳静岡版11/8,静岡11/13)
- 11/12 桜井琴風展於静岡産業会館(-)。(毎日中部版
11/13)
- 11/13 望月清作個展於清水戸田書店(-18)。(静岡
11/13,14)
- 11/13 風土展第17回展於沼津ギャラリーほさか(-18)。
(読壳静岡版11/8,沼津朝日10/9,14,静岡11/13)
- 11/14 トレチャコフ・プーシキン二大美術館展於富士美術
館(-S51.1/17)。(毎日東,中部,遠州版11/11,13,14,
15,16,28,12/9,13,23,S51.1/9)
- 11/14 旺玄社静岡支部展於静岡谷島屋書店(-18)。(静岡
- 11/8,朝日静岡版11/12,毎日東,中部,遠州版11/16)
- 11/15 中野謙二「俳句と漆塗り」(静岡11/15)
- 11/15 わが家の秘蔵品展於駿府博物館(-12/20)。
(静岡11/13,16,20,27,12/11,18)
- 11/16 松永貞水展於沼津駅ビル(-30)。(毎日東部版11/16,
沼津朝日11/21)
- 11/17 第4回複数による「複数展」於東京村松画廊(-23)。
- 11/ 杉山晃展於沼津富士急かたばみ工芸(-30)。
(沼津朝日11/19)
- 11/18 松永国彦写真展於静岡ガスサロン(-22)。(読壳静
岡版11/15,毎日中部版11/16,朝日静岡版11/18,静
岡11/20,22)
- 11/20 志賀旦山『駿河を描く』出版記念原画展於沼津ギャ
ラリーほさか(-25)。(静岡11/20,沼津朝日11/20,21,
朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/22,静岡11/23,毎日
東,中部,遠州版11/23)
- 11/20 山崎政雄油絵個展於静岡幸文堂(-25)。(読壳静岡
版11/15,静岡11/22,朝日静岡版11/22,毎日中部版
11/23)
- 11/20 鈴木儀一展於磐田あだち(-)。(朝日遠州版11/20)
- 11/ 鈴木三朝展於浜松松菱(-25)。(朝日静岡,遠州版
11/22,静岡11/20,23)
- 11/21 館野弘青《光の子》除幕式於熱海桃山小学校。
(静岡11/22,毎日東部版11/23)
- 11/22 行動美術五十周年記念展於浜松市美術館(-30)。
(静岡11/20,27,朝日静岡,遠州版11/22,読壳静岡
版11/22)
- 11/ 香月泰男展於浜松浜松画廊(-28)。
(朝日静岡,遠州版11/22)
- 11/25 市川正三小品展於清水戸田書店(-30)。
- 11/25 木津悠志教職10周年記念展於静岡ガスサロン
(-30)。(静岡11/20,27,朝日遠州版11/24,毎日中部版
11/26)
- 11/27 柴田隆二写真展於清水戸田書店(-12/2)。
(静岡11/22,29)
- 11/27 土橋妙子日本画展於静岡松坂屋(-12/2)。
(静岡11/22,27,29,読壳静岡版11/22,毎日中部版
11/26,30)
- 11/27 牧野敏雄展於静岡幸文堂(-12/2)。
(読壳静岡版11/22,毎日中部版11/23)
- 11/ 杉山照治・杉山瑛子二人展於静岡谷島屋書店

- | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| (-12/2)。(静岡12/1) | 12/16 長岡宏作品展於県庁西館展示室(-22)。(読売静岡版12/13, 静岡12/15, 朝日静岡版12/16, 毎日中部版12/21) |
| 11/28 「大庭祐輔 この人」(静岡11/28) | 12/16 古田晴久個展於浜松谷島屋書店(-21)。(読売静岡版12/6, 每日遠州版12/10, 静岡12/11, 朝日遠州版12/14) |
| 12/ 佐藤徹個展於焼津ブービイ(-31)。(静岡12/18) | 12/ 落合英男個展於県庁西館展示室(-21)。(静岡12/18) |
| 12/ 美術文化協会浜松支部展於浜松市美術館(-7)。(静岡12/4, 朝日遠州版12/6) | 12/ 岡本透展於磐田ギャラリーあだち(-21)。(静岡12/18) |
| 12/ 平野優子・藤井理代二人展於浜松市美術館(-7)。(静岡12/4) | 12/ 鈴木貞夫近況。(静岡12/17) |
| 12/ 2 ロシアの工芸とイコン展於富士美術館(-S51.1/15)。(毎日東, 中部, 遠州版11/25) | 12/18 水野唯男・栗野喜久司CONTON展於静岡谷島屋書店(-23)。(静岡12/13) |
| 12/ 4 成瀬憲個展於東京椿近代画廊(-16)。(県油協no.20) | 12/ 浦田周社展於静岡珈琲館(-29)。(読売静岡版12/20, 每日中部版12/21, 朝日静岡版12/27) |
| 12/ 4 平井俊男個展於清水戸田書店(-9)。(朝日伊豆岳南, 静岡12/6, 遠州版清美協no.139) | 12/22 伊藤勉「県美術」(静岡12/22) |
| 12/ 4 県美術大家小品展於静岡画廊しづおか(-9)。曾根浩二、画廊しづおか開設。(静岡12/1, 8) | 12/23 佐藤富美展於浜松谷島屋書店(-28)。(静岡12/18, 25) |
| 12/ 4 佐々木鉄心展於菊川 掛川信用金庫菊川支店(-6)。(静岡12/5, 郷土12/13) | 12/25 穴倉達雄《川中島合戦図》屏風、長野市へ寄贈。(毎日東部版12/25) |
| 12/ 5 「小栗正 この人」(静岡12/5) | 12/ 『小林清親東海道名所図絵』学研より刊行。(静岡12/26) |
| 12/ 6 高野良之介展於伊東この花ホール(-7)。(読売静岡版12/6) | 12/ 須山喜八、版画集刊行。(静岡S51.1/1) |
| 12/ 6 山下清東海道五十三次秀作展於焼津市民センター(-7)。(静岡12/4) | |
| 12/ 7 吉本石龍子水墨画展於沼津ギャラリータケイ(-14)。(沼津朝日12/4, 10, 每日東部版12/7, 静岡12/11, 朝日伊豆岳南版12/13) | |
| 12/ 8 川端政雄個展於東京檜画廊(-13)。(毎日中部版12/7, 朝日静岡版12/13) | |
| 12/ 9 梅島堅一個展於静岡ガスサロン(-14)。(静岡12/4, 11, 読売静岡版12/6, 朝日静岡版12/8, 每日中部版12/10) | |
| 12/ 市川元晴展於静岡松坂屋(-16)。(毎日中部版12/16) | |
| 12/10 ウィーン幻想派絵画展於浜松松菱(-16)。(朝日遠州版12/10) | |
| 12/ 西村正義《ブルターニュの海》ル・サロン入選。(静岡12/12) | |
| 12/11 静粹会第4回展於静岡西武(-17)。海野光弘・中條峰雄・前島秀章。(読売静岡版12/6, 静岡12/11, 13, 朝日伊豆岳南, 静岡版12/13) | |
| 12/11 鳩巣会展於沼津ギャラリーほさか(-16)。(沼津朝日12/11, 朝日伊豆岳南版12/11) | |
| 12/ 綱谷義郎展於静岡画廊しづおか(-23)。(静岡12/13) | |
| 12/13 薮崎昭、清水松風荘へ作品寄贈。(静岡12/14) | |

浜松市美術館の博物館実習

浜松市美術館 島口 直弥

1はじめに

「博物館実習」は、博物館法施行規則第1条に基づき大学で修得すべき「博物館に関する科目」で、登録博物館又は博物館相当施設等での実習で修得するものである。浜松市美術館においても、例年3人前後の学生を受け入れ、館長の指導の下、実習担当学芸員を中心に実習を行っている。実習内容は、「博物館実習ガイドライン」(文部科学省2009年)の「⑧実習内容」(p.9)にて提示されたものに準じながらも、浜松市美術館の特色(収蔵作品、展覧会、学芸員の専門性、館として力を入れている取り組み等)を取り入れたカリキュラム編成に留意している。本稿では、令和3年度に受け入れた実習生に向けて実施した実習カリキュラムとその実際について、学生の実習に対する取り組みの様子や成果を中心に紹介したい。

2 カリキュラム編成の留意事項

カリキュラム編成にあたっては、「実習生が受け身一辺倒とならず、自ら考え、学芸員として必要な企画・立案能力を養うことができる内容となるよう工夫すること」¹⁾を重視し、講話と実務体験のバランスに配慮している。

講話では、専門性やキャリアの異なる様々な学芸員の視点や経験に触れられるよう、複数の学芸員の講話を設定した。また、館長や館長補佐といった管理職、公立美術館の運営を支える事務職員等、立場の異なる職員からの講話を織り交ぜるように留意した。(図1)実務体験では、資料の取扱いや調査等、知識・技能を習得する機会、受付業務や監視業務等、美術館における多様な業務を経験する機会に加え、学生が主体的・対話的に思考しながら「答えのない問い合わせ」に向かって探究する機会を積極的に設定するように留意した。(図2)

また、これらの講話や実務体験の内容には、浜松市美術館の特色(収蔵作品、展覧会、学芸員の専門性、館として力を入れている取り組み等)を様々な形で取り入れることで、浜松市美術館で実習を行う学生に向けたオリジナルのカリ

キュラムをカスタマイズするように意識している。

館 長	美術館とは
館長補佐	公立美術館の運営
事務職員	美術館の広報活動
学芸員①	浜松市美術館の収蔵品
学芸員②	展覧会の企画・運営
学芸員③	展覧会の企画・運営
学芸員④	美術館の教育普及活動

図1 主な講話の内容

受付・監視体験
作品の取扱い・調査体験
模擬展示体験(企画立案を含む)
広報活動体験(SNS投稿)

図2 主な実務体験の内容

3 実習の実際

実施した講話と実務体験のうち、浜松市美術館で実習を行う学生に向けたカリキュラムとして特筆できるものについて、その概要を紹介する。

(1) 講話「展覧会の企画・運営」

浜松市美術館では、市民の要望に応じて幅広い芸術に触れられる機会を創出すべく、多様なジャンルの展覧会を実施している。近年は単館のオリジナル企画を実施することが多く、他の美術館や博物館、個人所蔵者から作品を借用する場合もあり、出陳交渉や調査、展示から作品返却まで、学芸員には気を抜くことができない多種多様な業務が山積する。本実習のカリキュラムでは、学芸員②が企画・運営した「上村松園展」(2019年)、「遠州の民藝展」(2021年)、学芸員③が企画・運営した「みほとけのキセキ」(2021

年)、「ハイジ展」(2022年)について、それぞれの学芸員から、展覧会の企画・運営に係る様々な業務の実態、展覧会の企画から実現までに至る経緯等について、実際の展示内容に則しながらリアルな実情を伝えた。これらの講話で伝える内容は、学芸員のキャリアや専門性はもちろん、日本画、民藝関係資料、仏像、アニメーション関係資料という、展示内容によって大きく異なるため、複数の学芸員の講話を実施したことは、学生に学芸員の業務について多面的・多角的に見る機会を与えることに有用であったものといえる。講話を受け、学生は展覧会の開催について「美術館は客層が決まっているわけではなく、幅広い方が展示されている作品に興味を持って訪れるため、全ての人の希望に沿ったことを行うのは難しいのだろうなと考えた」と、市民の目線に立った企画・構想に考えを及ぼせた。

(2) 実務体験「作品の取扱い・調査体験」

浜松市美術館は「ガラス絵の美術館」の異名をもち、西洋や東洋、日本国内の初期から現代にかけてのガラス絵を系統的に収集している。浜松市美術館で博物館実習にのぞむ学生には、ぜひガラス絵に触れてほしいと考えた。実際にガラス絵を用意し、学生は作品の取扱いの方法を体験した。さらに、コンディションチェックの方法や調書の取り方について、体験的に学ぶことができた。(図3)学生は「作品に対して責任を持って向き合う」ことを学びつつ「中学生の時から馴染みのあった浜松市美術館の裏側を知ったような1日だった」と活動を振り返っている。



図3 ガラス絵を用いた業務体験の様子

(3) 実務体験「模擬展示体験(企画立案を含む)」

浜松市美術館の所蔵品(学芸員が予め選定した作品)の中から、3人の学生が1点ずつ選び、1つの展示ケースの中に展示するという課題を設定した。この実務体験は、単に作品を展示するということに留まらず、作品選定の段階から展示コンセプトの考案、作品調査・研究、展示パネルやキャプションの作成を含むことに加え、展示が実際に来館者の目に触れる形とすることで、より実践的で「答えのない問い」を探究する課題設定とした。

学生はそれぞれ、硯、ガラス絵、茶碗を展示作品として選び、それらを1つの展示ケースに陳列する上でのコンセプトを、対話しながら考えた。その結果、「3人の学生が個々に好みの作品を選んだこと」、「此処(=浜松市美術館)ならではの作品であること」、「小さな展示であること」に意味や価値を見出し、展示名を「此処個々小展(ここここてん)～選ばれたのは石、土、ガラスでした～」と決定し、その意図を展示パネルにまとめることができた。また、各作品について、図録や文献をもとに調査を進め、展示解説を執筆し、展示キャプションを制作した。展示時には、硯やガラス絵を固定する展示台の高さの調整に試行錯誤したり、茶碗を固定するテグス止めに挑戦したりと、主体的に業務体験に取り組む様子が見られた。(図4)展示完了後、展示内容についてSNSに投稿し(図5)、広報活動を実施することもでき、博物館実習の成果を総括する展示となった。





図4 模擬展示の企画構想と展示作業の様子



図5 学生が展示の広報として投稿したSNS(Instagram)

4 おわりに

本実習カリキュラムを通して学生たちは、美術館の業務について、学芸的側面や事務的側面等、多面的・多角的に学ぶことができたものと思われる。学生一人一人が本実習で得たものを、希望する学芸員資格の取得、美術館や博物館等への学芸員として就職へ繋げてほしいと切に願うものである。しかしながら、美術館や博物館等における学芸員の採用は依然として狭き門であり、すべての学生の希望が叶うのは難しいのが現状といえる。本実習は、学芸員として必要な資質・能力を育むのはもちろんのこと、美術館や地域の作家・芸術に慣れ親しみ、生涯にわたって美術を愛好する人材を育成する機会、さらには探究的な課題設定を通して、他業種での業務にも共通する「社会人」として必要な資質・能力について学ぶ機会をも創出したといえるのではなかろうか。

今後の博物館実習において、学生の学芸員資格取得、美術館や博物館等への就職を目的の中心に据えながらも、浜松市美術館としてのオリジナリティを發揮し、学生の「社会人」としての幅広い将来への可能性を見据えた実習プログラムをカスタマイズしていきたい。

[註]

1 文部科学省「博物館実習ガイドライン」2009年 p.9

[附記]

本実習カリキュラムの実施には、筆者に加え、飯室仁志、高山和也、市川智久、増井敦子、榛葉公作、児玉実佳、内山智恵が、それぞれ携わった。

突撃!となりのミュージアム! Vol.2

-「どうしてる? 多様なミュージアムの運営状況」篇(報告)

静岡県立美術館(静岡県博物館協会事務局) 貴家 映子

本協会事業推進グループは、ミュージアムが共通して抱える様々な課題や、加盟館園の日々の業務に役立つ実践的な知識まで、多彩なテーマで講習会やシンポジウムなどを実施してきた。近年、同グループでは、本協会の事業をより開かれたものとするため、加盟館園からも発案ができるようなプラットフォーム化を図ろうという機運が高まっている。そのため、昨年度は、各館の成功例や課題等を共有しあうことを目的として、加盟館園同士の相互インタビュー企画「突撃!となりのミュージアム」を試行した。本稿は、その第二弾の報告である。

令和4年11月8日、市立、県立、指定管理者、公益財団法人と、運営状況の異なる加盟館園のメンバー4名が浜松市博物館に集まり、それぞれが关心を抱くテーマを持ち寄ってインタビューを実施した。以下に、ダイジェスト版を紹介する。



左から、高橋哲也氏(静岡市美術館学芸員)、鈴木奈々氏(浜松市博物館学芸員)、貴家映子(静岡県立美術館主任学芸員・報告者)、深沢香奈氏(佐野美術館広報グループ)

年間の展示企画について

貴: 佐野美術館さんは年間の企画のサイクルが割と安定していますね。年間のラインナップはどのように決めているのでしょうか?

深: 地域に根差した美術館を目指して偏りのないよう企画をしています。収蔵品にある刀剣の展覧会を年1回は開催、3月には雛人形を、という感じで決まっていて、来場者数が見込めて世代を超えて楽しんでいただける絵本展も昭和60年から実施しています。「さのびは絵本展」というのが定着していると思います。

高: 静岡市美術館では、最近は、企画展が年間5本で落ち着いています。立地的にも気軽に立ち寄りいただきたいので、西洋、日本、絵本展などバランスよく開催するようにしています。学芸員の専門性を活かした企画や、地元の資料を使った独自企画を、外部から提案される巡回展と組み合わせています。

鈴: 浜松市博は企画が年に3~4本です。学芸員が現在は4人で、考古、歴史、民俗を担当しています。それぞれ分野ごとの展示を1本ずつ持っている感じです。展示は来場者の興味など意識しなければなりませんが、担当分野でテーマを決めてその研究成果をご覧いただくという形です。地域色が出るような展示にし、テーマによっては、多くの来場者が来てくださいます。常設展では学校団体の来場も多いです。

貴: 静岡県美は、つねに企画展と収蔵品展の2本立てで、それぞれ年間4~6本ほど開催します。そのうち、収蔵品で構成する企画展が1本はあります。館内で「文明展」と呼んでいる「古代エジプト展」などの大型企画展は、当館が元々「美術博物館」として構想されたこと、人文系の県立博

物館がないことなどが背景にあって開催されています。

展示方法、解説の工夫や課題について

鈴:自館や自分の展示の際、展示の説明文の表現をどのように意識しているのか、気になりました。自分の展示をする時は、説明パネルは200~250字、資料のキャプションは100字前後を意識して作っています。常設展のパネルは小学6年生までに習わない漢字にはルビを振っています。

貴:例えば、今回の収蔵品展(2022年度収蔵品展「絶景考Ⅰ」および「絶景考Ⅱ」)では、作品をカテゴリーごとに分けて並べた際の意図が伝わるように、解説をつけました。予算やスケジュールの限界があって、館内でパネルを作ることにしたのですが、県立美術館ではA3サイズまでしか印刷ができないので、A3パネルに入る文字量で、あまり文字が小さくなりすぎないように書きました。初めて来た人でも風景画の面白さを感じてほしいと言う思いがあったので、中学生ぐらいでも頑張れば読めるように作りました。

深:このテーマについて、館長に聞いてきました。短すぎても説明しすぎてもいけないし、また、自身も年を重ねてきて、文字が小さいと読めないということが分かったそうです。考え方も変わってきたけれど、見せ方も変わってきたと思うと言っていました。巡回展をする時は、テキストだけの共通のものを作り、パネルはそれぞれの館の規模などに合ったものを各館で作ることがあるそうです。

高:静岡市美術館では、巡回展が多いので、巡回のパネルやキャプションを使うことが多いんですけど、小さすぎるものや文章が長すぎるもの、難しくてあまり一般向けではないと思うものは作り直したりしています。それから、看板類のデザインとの統一感や空間演出上の理由から作り直すこともあります。しかし、すべて作り直すとやはり予算的にもかなり厳しくなるため、使えるものは使うようにしています。

防災について

高:今年9月には県内で大きな自然災害が発生しました。

各館で行っている防災対策について情報交換をしましょう。

鈴:浜松市博物館では文化財防火デーに防災訓練を実施しています。これは収蔵資料を対象としたものではなく、主に観覧者の避難誘導です。消防設備点検をする業者による講習を聞いたり、防火シャッターの操作方法を確認や有事の際の消火栓、消火器の使い方、廻塚遺跡に茅葺の復元住居があるので、そこで放水訓練も行います。

貴:県立美術館では毎年メニューを変えて訓練を実施しています。今年は地震が発生したという想定で、監視員を含む職員総出で役割分担をして動きを確認しました。終了後は改善点を話し合い、次回に活かすようにしています。消防設備の点検は毎年度8月と2月に実施して、消防署に届け出ているということです。

深:佐野美術館は地震訓練、火災訓練と年2回の実施を基本に、人形を使った心臓マッサージやAEDの取扱い講習もあります。反省会が無いのでマニュアルのブラッシュアップができていないことが当館の課題だと感じました。消防署に消防計画書を提出しており、職員の変更があった際は届け出ます。また、定期的に備蓄品のチェックを行っています。

高:静岡市美も開館中に地震と火災が発生した想定で避難誘導訓練を年1回実施し、その都度、非常時対応マニュアルを更新しています。また複合施設のため、ビル全体の訓練も別途あります。葵タワーは市指定の避難場所ではないので、備蓄品は帰宅困難となった職員用の毛布程度です。停電時に起動させる館独自の非常用電源はありますが、起動させたのは今年の豪雨による停電が初めてでした。

深:お互いに情報共有することで自館に不足しているものが見えてきますね。

ボランティアについて

鈴:浜松市博物館で活動しているボランティアの方は、小学校の団体見学の時の解説や体験の補助についてもらったり、常設展のガイドをしてもらったり、分館で活動する方もあります。

今はイベントの補助で活動されている方が多く、団体見学の時に解説してくれるボランティアの方も増やしたいと思っていますが、平日に入れないという方や、ガイドの方は難しいと言われてしまうことが結構あって…。ほかの博物館とか美術館ではどのようなボランティアの方がいるのか、ボランティアの教育はどのように行っていますか?

貴: 県美では図書閲覧グループ、学校グループ、実技室グループ、ギャラリーツアーグループ、地域連携・草薙グループ、資料整理グループの6種類のボランティアがあります。ボランティア全体の研修をした後に、各グループの活動に即した研修を実施します。当館では対話型鑑賞を行うギャラリーツアーグループが、解説ボランティアに近いと思いますが、担当の学芸員自身が研修に行き、学んだことなどを教えてくれるようです。

新しい方も入って来やすいように登録は一年ごとの更新にしていて、いまは若い世代の参加者確保が課題でしょうか。

高: 常時ボランティアが居ることはないですね。春と夏にしづびオープンアトリエというワークショップがあるのですが、その時限定で学生ボランティアに入ってもらい、ワークショップの補助をしてもらっています。募集は学生に限っているので、世代の偏りといった問題は生じていないです。(現在はコロナ対策のため募集を中止しています。)

深: 佐野美術館では、館内サービスボランティア、教育普及ボランティア、解説ボランティア、隆泉苑掃美ボランティアの4種類があります。複数掛け持つ方もいて、80人ほどが活動していらっしゃいます。解説ボランティアは、常設展示室の仏像解説をしています。コロナの流行前は、毎年研修旅行をしていました。

貴: ボランティアと協働していること自体が一つの地域貢献になるのかもしれないし、参加する世代の問題も考え方次第ですね。助けてもらっている面もあるけれども、活動の場を提供しているとも言えます。

深: いずれにせよ、みなさんの顔と名前を覚えて声をかける関係作りは大事だと思います。

ミュージアムショップ・オリジナルグッズについて

深: ミュージアムショップやグッズについて教えてください。当館は自館で運営しており近年オリジナル商品づくりに力を入れています。収蔵作品をワンポイントにした刺繡ソックスをつくりました。ショップ担当が制作しますが、グループの垣根を越え意見交換するので、何をつくるか全員が知っています。

高: 静岡市美術館は、館の監修でショップを運営しています。オリジナル商品はデザイン性を重視し、学芸員がロゴマーク等をデザインした柿木原政広さんと一緒に制作しています。周年記念でつくったものや、茶アメ、マスキングテープ、オリジナル色鉛筆といった商品だけでなく、包装用品もロゴを使用することで、美術館イメージとして定着してきたように思います。オリジナル商品以外は、半期ごとにショップより取扱商品の提案があり、美術館が許可を出します。オリジナルグッズ制作が館のブランディングにつながることを意識して制作する物やデザインを決めています。

貴: 当館は県内の書店に運営を委託しています。企画展は別ですが、普段の商品ラインナップはお任せで、事前に学芸員に許可を求められることはありません。オリジナル商品はありますが、ここ数年で新たにつくったものはほとんどないので、40周年に向けて予算を確保し新グッズをつくりたいと思っています。

鈴: 浜松の注染染めのぬぐい、地元の授産施設とつくりたナウマンゾウと貝塚のトートバッグ、遠州縞のハンカチ、天竜木材の定規、浜松城のペーパークラフトなど扱う商品の大半はオリジナルで年間を通し販売できるものを制作しています。浜松市博物館は、スペースの問題でショップがなく、受付で見本から選んでもらい販売しています。

本インタビューの詳細は、後日、静岡県博物館協会ウェブサイト「しづはく.net」(<https://www.shizuhaku.net>)にて公開予定です。事業推進グループでは、加盟館園の交流を活発化するため、今後も相互インタビューを継続していくたいと考えています。他の加盟館園からの参加、実施のご提案も大歓迎です。



地元の名産品と遺跡や展示資料がリンクした浜松市博物館のオリジナルグッズ。

遠州綿紬の巾着袋(右中)はオリジナルキャラクターのタグ付き。浜松注染手ぬぐいの柄(中央、左中)は所蔵資料がモチーフになっている。天竜ヒノキを使用した歴代の浜松城主名入り定規(左下)は令和4年度の新商品。



印象的なロゴをあしらった静岡市美術館のオリジナルグッズ。

クリアファイル(右上)、マスキングテープ(右下)、
オリジナル色鉛筆(中央)、茶アメ(左上)、缶バッジ(左下)。

令和4年度 第1回講習会 LED照明の現在 2022(報告)

東海大学海洋科学博物館（静岡県博物館協会事業推進グループ） 手塚 覚夫

令和4年度 第1回講習会 LED照明の現在2022

日 時：2022年12月20日(火)13:30～17:00

会 場：静岡県立美術館 県民ギャラリー

参加者：静岡県博物館協会、愛知県博物館協会、神奈川県博物館協会、山梨県博物館協会の各加盟館 会場参加者26名(18団体)、オンライン参加者62名(36団体)

日 程：13:30 第1部

講座「LED 照明の現在」／デモ「照明シーティングの実際」

講師：藤原工氏(株式会社灯工舎 代表取締役)

*第1部のみzoomでのオンライン聴講→2部も視聴可とした。

15:30 第2部

協力業者によるデモ「LED照明の比較」

協力企業：シーシーエス株式会社、パナソニック株式会社、エレクトリックワークス社、ミネベアミツミ株式会社、株式会社モデュレックス、株式会社YAMAGIWA
(五十音順)

内容：

博物館、美術館等において展示物を見やすく美しく展示するためにその物にあった照明を照射することが重要である。光の質や照度、照射範囲によって作品の雰囲気が大きく変わってくる。近年は博物館、美術館等における照明の主流はLEDに変わりつつあり、それぞれの園館でLEDの導入法や使用法、その特性に関する情報が求められている。展示の現場のみの情報では日々進歩する照明の技術と各企業の特性を充分に把握するのはとても難しい。そのような状況の中、ミュージアム照明について専門的な知識を持つ方々をお招きして講座を開催した。そこで光や照明の考え方、LED照明の基礎的な知識を学び、その後、複数メーカーの方から提案されている実際の機器を用いて、その特

質を比較する内容とした。

参加者は静岡県博物館協会をはじめ、愛知県博物館協会、神奈川県博物館協会、山梨県博物館協会の加盟館から美術館、博物館、資料館、水族館、市役所、教育委員会など様々な団体からの参加をいただいた。参加者の方々の様子からもLEDに関する情報が強く求められていることがうかがえる。オンライン参加者62名(36団体)とオンラインでの参加も多く見られた。コロナ禍となり3年が経過し、オンラインでの会議・研修は日常となっているが、現地での講習会開催は、他館の方と顔を合わせることのできる貴重な機会となった。

本講習会は静岡県博物館協会における初のzoom配信としても実施され、今後の本協会の活動に関して有益な成果を残すことができた。リモートでの参加により距離等の問題もクリアができる上、参加者数も会場の広さに左右されないメリットがあるのも事実である。

講座「LED照明の現在2022」はミュージアム照明がご専門である株式会社灯工舎 代表取締役の藤原工氏にお話いただいた。ヒトがモノを見るということには光の性質、作品表面の特性、人の眼と脳の特性が深く関係している。作品を空間や展示内でどのように演出するかにより、その照明を使い分けることが重要である。また照明によって作品が損傷し、褪色する例も多いことから紫外線赤外線をカットする大切さや可視光線の強さもコントロールすることをお話いただいた。照度や色温度、自然感も展示を構成する上では非常に重要で、展示全体の雰囲気を占める大きな要素である。またLEDに関しては白色LEDの発光原理をはじめ、紫色励起(れいき)高演色白色LEDの分光や青色励起白色LEDの高演色が紹介された。人間の眼の機能がそれぞれ受け取ることのできる色合いや照度、明暗への順応性、また作品を観覧する際に人が使う器官などを詳しくお話いただいた。眼で受け取った情報を脳で処理し、認識する際にその演色性や自分の中の願望(色合いはこうあってほしい)も加味され、表面の陰影や光沢感、透明感から

作品表面の質感を得ているという。「光をデザインすることは人との視覚コミュニケーションをデザインすることである」という言葉が印象的であった。実際にそれぞれの照明器具を用い、絵画や屏風、化石(レプリカ)に光を照射し、解説しながらのデモンストレーションではその手法を参加の方々は熱心に記録していた。

第2部では協力業者によるデモ「LED照明の比較」を行った。第2部も引き続きzoom配信として実施した。各メーカーのご協力のもと、実際に提案されている新しい照明機器を様々な場面を想定し、デモンストレーションしていただいた。参加者は自由に器具の調光や操作を行い、担当者の方と詳細なやり取りをしていた。普段あまり詳しく聞くことのできない照明やLEDに関する技術を丁寧な解説と実演を交えてご紹介いただき、照明の比較やその実際を良く理解することができた。本講習会はシーシーエス株式会社、パナソニック株式会社、エレクトリックワークス社、ミネベアミツミ株式会社、株式会社モデュレックス、株式会社YAMAGIWAの方々に無償でご協力いただいた。講義いただいた株式会社灯工舎 藤原工氏、各メーカーの皆様に感謝の意を表したい。



屏風への照明



骨格標本(レプリカ)への照明



「LED照明の現在」の講和



講習会の様子

2022(令和4)年度 静岡県博物館協会 役員会、総会、事業報告

概要

今年度もコロナ禍のため、ご参集頂いての役員会、総会開催は不可能だと判断し、役員の方々のご承諾を頂いた上で、書面により開催することとなった。議案は全て原案通り可決され、事業計画に沿って、今年度も協会活動は進められた。

だが、9月23日(金祝)の台風15号により、会員である静岡平和資料センターの資料が一部水損したことを受け、緊急の役員会、総会を書面で開催、地域セミナー秋季分の予算を資料レスキューに充てることが認められた。

この緊急対応は、大前提として、事業推進グループメンバーによる、迅速な会員安否確認があつたために、可能になった。

また今年は、静岡県が東海地区博物館連絡協議会の当番県に当たっていたため、7月28日(木)、静岡市民文化会館を会場として、理事会・総会を開催し、研修会として、グランドオープン前の静岡市歴史博物館を見学した。

役員会、総会の実施について

2022(令和4)年度役員会、総会の主なスケジュール

5月17日(火)	今年度役員会、総会の資料を、全会員宛に発送。
5月19日(木)～25日(水)	審議期間。 ※ご意見、ご質問はメールかファックスで受付、事務局からの回答はウェブの当協会公式サイトにある会員ページ上の掲示板で行なうこととした。
5月26日(木)～29日(日)	採決期間。 ※27日(金)必着で、「採決の委任状」または「採決用紙」を、事務局宛にお送り頂いた。
6月1日(水)以降	今年度役員会、総会の結果を、会員宛に送付。
9月23日(金祝)	台風15号
11月14日(月)～18日(金)	臨時役員会を書面で開催
11月21日(月)～27日(日)	臨時総会を書面で開催
11月28日(月)	決議

今年度の地域セミナーについて

5月の役員会、総会での可決分

熱海市立澤田政廣記念美術館「特別企画 夜間延長開館」→¥50,000-

駿府博物館「短期歴史講座 静岡「その時」」→¥100,000-

公益財団法人佐野美術館「古邨を飾るミニ屏風をつくりましょう」→¥20,000-

秋季地域セミナーは、上述の如く開催されず、静岡市平和資料センター水損資料のレスキューに予算を配分した。

研修会、講習会について

事業計画として、年間2、3回の研修会や講習会の実施を承認して頂いており、コロナ禍は、僅かずつではあるものの、諸々の規制が緩和される方向で推移した。このため研修会は、以下の二つとした。

「LED照明の現在2022」12月20日(火) 会場:静岡県立美術館

「博物館の防災を考える歴史史料編」3月19日(日) 会場:静岡市歴史博物館

前者の詳細は、本紀要報告ページを参照されたい。

後者については、本稿入稿時は未開催であるため、来年度紀要に譲りたい。(事務局 新田)

(参考)

2022(令和4)年度 事業計画

1 役員会・総会の開催

コロナウィルス感染拡大防止のため、今年度は郵送資料に基づき、協会ウェブ掲示板上での審議とする。

- 議事:(1)令和3年度事業報告及び決算 (2)令和4年度事業計画及び予算
(3)令和4年度地域セミナーについて (4)退会館園について
(5)新規入会希望館園について

2 研修会・講習会の実施

対策次第では、対面での開催も視野に入れられるかも知れない。1～3回程度、開催を検討したい。

3 地域セミナーの開催

今年度採択案は別紙参照。

※昨年度はコロナ禍の影響によって応募件数が少ない上、歳入の点でどの館の事業も逼迫していると思われたため、11月～3月にかけての事業について、9月に再募集した。今年度も同様の予定としたい。

4 講演会等の共催・後援

5 静岡県博物館協会研究紀要 第46号の刊行

6 静岡県博物館協会ホームページの保守・運営、会員館園ウェブ環境支援

当協会ホームページの保守・運営に加え、会員館園向けに機材を貸し出すことで、動画制作のハードルを下げる。また、協会としてZOOMのアカウントを保持することで、会員館園によるオンライン研究会等の実施をサポートする。

7 東海地区博物館連絡協議会理事会及び総会への出席

※通例、静岡→愛知→山梨→神奈川→岐阜の順に開催している。一昨年度、順番が一時的に入れ替わり、岐阜→神奈川の順に開催され、今年度は当県が当番である。7月下旬開催の見込み。

8 防災事業

ウェブサイトに加え、SNSでの情報発信について検討する。

9 広報及び情報交換

10 事業推進グループによる事業の推進

- ・事業推進グループ会合は年間4回程度開催。

2022(令和4)年度東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部 理事会・総会・研修会実施報告

【開催内容】

- | | |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・理事会の概要 | 日 時 令和4年7月28日(木)11:00～11:50
場 所 静岡市民文化会館 第一議室
出 席 日本博物館協会2名 理事9名 監事1名 事務局8名 計20名
議 題 1)令和4年度理事及び監事の選任について 2)令和3年度事業報告及び決算報告について
3)令和4年度事業計画及び予算案について 4)令和5年度開催県について
5)60周年記念事業について
結 果 議題1～5について了解されたので総会提案となった。 |
| ・総会の概要 | 日 時 令和4年7月28日(木)13:30～14：30
場 所 静岡市民文化会館 第一議室
出 席 日本博物館協会2名 理事9名 監事1名 会員40名 事務局8名 計50名
議 題 1)令和4年度理事及び監事の選任について 2)令和3年度事業報告及び決算報告について
3)令和4年度事業計画及び予算案について 4)令和5年度開催県について
5)60周年記念事業について
結 果 全件、全会一致にて承認された。
取 組 議題5「60周年記念事業について」は「東海地区5県ミュージアムマップ」を制作することとし、実行委員会を立ち上げ、その総括を神奈川県が担って進めていく。 |
| ・研修会実施報告 | 日 時 令和4年7月28日(木)15:00～16:30
場 所 静岡市歴史博物館
内 容 新規開館の施設及びバックヤードの見学等
参加者 52名 |

静岡県博物館協会 研究紀要投稿規程

1. 投稿を受け付ける原稿

(1) 内容規定

加盟館園職員が從事している職務(展示・調査研究・保存・教育普及・その他)に関する論文、報告、事例紹介、収蔵品紹介等
※専門分野に関するものに限りません。学芸職員以外の投稿も歓迎します。

(2) 執筆者規定

加盟館園職員一人もしくは複数人の執筆によるものとします。複数人による場合、全執筆者の1/3が加盟館園職員であることを条件とします。
※会員活動の報告や論評等で意義が認められる場合、例外を認めることがあります。

2. 入稿規定

(1) 原稿の種類

日本語による原稿を基本とします。

(2) 入稿の方法

デジタルデータと印字原稿、必要なら図版(ボジ、印画紙写真、デジタルデータ、図面等)等を併せて提出して下さい。
デジタルデータはOSを問いませんが、必ずテキストデータを添付して下さい。図版のデジタルデータはJPEGに統一して下さい。
※万一の場合に備え、原稿提出の際には必ず手元に控えを残しておいて下さい。

(3) 分量

ページ数目安(1ページ当たり)	事例報告等(1~4ページ分程度)	事例報告等(1/2ページ分)
論文 縦書き 写真無しの場合 2,000字	縦書き 写真無しの場合 2,000字	縦書き 写真無しの場合 1,100字
写真有りの場合 1,600字	写真有りの場合 1,600字	写真有りの場合 900字
横書き 写真無しの場合 2,000字	横書き 写真無しの場合 2,000字	横書き 写真無しの場合 1,100字
写真有りの場合 1,600字	写真有りの場合 1,600字	写真有りの場合 900字

(4) 文字原稿(印字原稿は次の書式でご提出下さい)

字数(1シート) A4版 40字×30行

※誌面レイアウト・フォーマットに拘えた入稿も歓迎します。レイアウト見本をご希望の方は、事務局にお問い合わせ下さい。

(5) 図版原稿(1ページの版面はA4)

カラー(巻頭図版) 掲載希望があればご相談下さい。
モノクロ すべて挿図として扱います。

- a カラー図版原稿には、目次用のデータを明示して下さい。
- b 挿図原稿裏面に挿図番号とネームを記入して下さい。デジタルデータの場合は、データ名に明示して下さい。
- c 挿図原稿のコピーもしくは印刷された挿図原稿に、掲載希望範囲を、製版作業の支障にならないよう、明示して下さい。
- d レイアウトや掲載時の大さの希望がある場合は、その旨注記して下さい。
- e 本文の印字原稿に、挿図番号で挿入箇所を示して下さい。

(6) 図版の著作権申請

写真等掲載に関する作品所蔵者・著作権者からの許諾等取得は、執筆者が行なって下さい。なお、当協会紀要は協会ウェブサイトにもアップされます。

(7) 執筆者の表示

原稿には氏名・自宅住所および所属機関所在地(それぞれ〒、Tel.、Fax.番号)・部署・役職を明記して下さい。氏名には読み仮名をふって下さい。
成果品である紀要には、氏名と所属のみ記載します。

(8) キーワードの設定

ウェブ上の検索を容易にするため、記事のキーワードを設定して下さい。

3. 原稿の送付先

原稿は、下記宛にお送りいただくか、ご持参下さい。

〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田53-2 静岡県立美術館内
静岡県博物館協会事務局
Tel. 054-263-5857
Fax. 054-263-5742

4. 日程および申込・校正手順

(1) 日程(予定)

申込締切 2023年11月末日
入稿締切 2024年1月末日
発行予定 2024年3月末日

(2) 申込方法

申込締切までに、下記項目を静岡県博物館協会事務局宛にご連絡下さい。

- ・執筆者（複数執筆者の場合は、全員の氏名と所属を明記）
- ・題名（仮題で可）
- ・分量見込（レイアウト見本による全ページ数で表示。図版、表等の希望も含む。）
- ・縦書き、横書きの希望

※分量は、1本の論文当たり15ページ以内を基本とします。

(3) 申込の確認

静岡県博物館協会事務局は、申込締切後2週間以内に、執筆者申込時の分量見込みに基づいて紀要製作の見積もりを行ないます。予算上製作が可能であれば、全申込者に申込通りの分量での執筆が可能である旨を連絡します。予算上不可能な場合は、申込者に対して分量についてのご相談を行ない、ご執筆いただく分量上限を決定します。

(4) 入稿の方法及び原稿の掲載

入稿は、上述2の「入稿規定」に従って、上述3の「原稿の送付先」に送付するか、ご持参下さい。4-(3)で示した事情により、実際に入稿した原稿が分量見込みより増えた場合、執筆者に分量を減らしていただくか、当該号での掲載を取りやめることができます。

(5) 校正

入稿締切までに入稿された場合、執筆者は文字校正（図版等を含む）2回を行なうことが出来ます。入稿締切が守られなかった場合は、この限りではありません。

(6) レイアウト

レイアウトはフォーマットに基づき、執筆者の希望を尊重して行ないますが、最終的には静岡県博物館協会事務局が決定します。

5. その他

(1) 文責

原稿の内容についての文責は、全て執筆者にあるものとします。著作権や誤植、不適切な表記等の問題について静岡県博物館協会及び静岡県博物館協会事務局は、一切の責任を負いません。

(2) 执筆者への成果品割当

執筆者には、30部を贈呈します。複数執筆者の場合、全員分を合わせて90部を上限として贈呈することが出来ます。

(3) 抜き刷りの作成

執筆者から希望のある場合、実費をご負担いただくことで、執筆箇所の抜き刷りを作成します。静岡県博物館協会事務局にご相談下さい。

